

鳥取市議会予算審査特別委員会文教経済分科会会議録

会議年月日	令和5年3月15日（水曜日）		
開 会	午前9時57分	閉 会	午後2時34分
場 所	市役所本庁舎7階 第2委員会室		
出席分科員 (8名)	分科会長 浅野 博文 副分科会長 金田 靖典 分科員 中山 明保 加嶋 辰史 米村 京子 吉野 恭介 石田憲太郎 岡田 信俊		
欠席分科員	なし		
分科員外議員	なし		
事務局職員	議事係主任 橋本 圭司	調査係主事	福田 佳菜
出席説明員	<p>【経済観光部】</p> <p>経済観光部長 大野 正美 次長兼経済・雇用戦略課長 渡邊 大輔 経済・雇用戦略課課長補佐 黒田 洋太 経済・雇用戦略課市場開拓係長 岩崎 勝紀 経済・雇用戦略課雇用政策係長 保木本 淳 企業立地・支援課長 西田 茂樹 企業立地・支援課参事 綱田 正 企業立地・支援課課長補佐 太田 順二 観光・ジオパーク推進課長 平井 宏和 観光・ジオパーク推進課参事 米澤 裕治 観光・ジオパーク推進課課長補佐 西垣 拓二 観光・ジオパーク推進課観光振興係長 川口 隆 経済観光部参事 前田 武志 鳥取市関西事務所長 林 公博</p> <p>【農林水産部】</p> <p>農林水産部長 田中 英利 農政企画課長 山川 泰成 農政企画課課長補佐 蔵増 達弘 林務水産課課長 山口 真二 林務水産課課長補佐 西谷 直之 農村整備課長 坂本 武夫 農村整備課課長補佐 大和谷雅人</p> <p>【農業委員会】</p> <p>事務局 局長 谷口 博信 局長補佐 田中 陽一</p>		
傍 聴 者	2人		
会議に付した事件	別紙のとおり		

午前9時59分 開会

◆浅野博文分科会長 ただいまより、予算審査特別委員会文教経済分科会を開会いたします。

本日の日程はお手元に配布のとおり、経済観光部の令和5年度当初予算の質疑を行います。その後、農林水産部・農業委員会については追加提案分も含め、議案審査と陳情の審査を行った後、令和5年度当初予算の質疑を行います。よろしく願いいたします。なお、令和5年度当初予算関係議案につきましては、予算審査特別委員会での審査となっております。委員長の宣告により、文教経済委員会と文教経済分科会を切り替えますので、御承知ください。明日の教育委員会も同様に進めてまいります。

【経済観光部】

◆浅野博文分科会長 それでは経済観光部の審査に入ります。

初めに大野部長に御挨拶をいただきたいと思えます。

○大野正美経済観光部長 おはようございます。経済観光部でございます。よろしく願いいたします。

最初に高校の今年度の新卒者の就職の内定状況について御報告をさせていただきます。鳥取労働局が発表しております最新の数字でございます。1月末現在でございますけれども、高校生の就職内定率が96.5%、これは前年同期を0.3ポイント上回っております。最終的には昨年度同様、ほぼ100%に近い内定率になるものと想定をされております。また、高校生の求人倍率でございますけれども、2.9倍ということで、これ前年同期が2.05倍ですので、かなり大幅に上回ってきているという状況で、高卒者の採用がなかなか厳しい状況になってきているということでございます。鳥取管内の有効求人倍率が1月末現在で1.42倍ということで前年同期と同水準で推移をしておりますけれども、2倍を超えている業種も多くございまして、引き続き人手不足の状況が続いております。

このような状況下におきまして、本市としましては若年層のみならず、女性や高齢者、また、障がい者や外国人など多様な労働力が地元企業で活躍していただけるよう取り組んでいく必要があるというふうに考えております。新年度予算におきましても、新規事業としまして県や本市の男女共同参画課と連携したクラウドワーカーの育成と地元企業での活用促進を図る事業等盛り込んでおりますけれども、外国人の確保支援やシルバー人材センターの事業などにも引き続き力を入れてまいりたいというふうに考えております。それでは、本日の当初予算の御審議、よろしく願いいたします。

◆浅野博文分科会長 本日の分科会について、次の点を確認いたします。討論、採決を行うことはできません。各部の審査終了後、分科会長報告に盛り込むべき事項の協議を行い、最後に全体の取りまとめ、委員長報告に盛り込むべき事項の協議を行います。分科会長報告は審査時における質疑、答弁、意見を報告するものですので、発言のなかったものは報告できません。分科会長報告はこの分科会で確認します。皆様の御協力をお願いいたします。

また、審査に先立ちまして申し上げます。質疑及び説明、答弁は簡潔にさせていただきますよう、執行部及び委員の皆様をお願いします。

ここで訂正報告がありますのでよろしくお願いたします。西田課長。

○西田茂樹企業立地・支援課長 企業立地・支援課の西田です。すみません、そうしましたら、先にお配りしております資料4なんですけども、予算審査特別委員会文教経済分科会説明資料（補足説明資料）でございますけども、これの9ページをお開きいただきたいと思えます。関係人口推進事業費でございます。この中で大きな2番の事業の内容の（2）ワーケーションプログラムの造成実施費用支援300万とありますけども、この下の説明の中で補助上限額300万、予算額が300万掛ける1件としてありますけども、正しくは、補助上限額は100万円で、予算額が100万円掛ける3件で300万でございます。なお、タブレットを御覧の委員様は、データのほうは既にこのように修正をさせていただいているところでございます。また、事業別概要につきましては正しく表記されていますので修正はございません。以上、申し訳ございませんけど、よろしくお願いたします。

議案第1号令和5年度鳥取市一般会計予算のうち所管に属する部分（質疑）

◆浅野博文分科会長 まず、議案第1号令和5年度鳥取市一般会計予算のうち、所管に属する部分を議題とします。

これより本案に対する質疑を行います。質疑のある方は挙手をお願いします。はい、加嶋委員。

◆加嶋辰史分科員 加嶋です。そうしましたら、事業別概要書の先頭のほうから行きたいと思えますが、139ページの上段、項目名がスマート・エネルギー・タウン構想推進事業費、款、商工費、項、商工費、目が商工業振興費です。こちら、総括質疑でも足立考史委員から質問があって、詳細は聞いたとおりなんですけれども、この延期になった経緯がありまして、具体的にこういう見積もりというか、数字が出てきているので、同じ企業さんが担当することが前提なのか、また、どういった企業を対象にされていこうと考えておられたのか教えてください。

◆浅野博文分科会長 はい、渡邊次長。

○渡邊大輔次長兼経済・雇用戦略課長 経済・雇用戦略課渡邊でございます。前回の小水力発電で事業は延期ということになりました。それは事業実施に当たりまして請負をプロポーザルで請けられた企業様が、足立議員の言っておったときのおり、鳥取市の考え方、それから全量売電をしたいという企業様の考え方、そこが相違があったという部分で、経費もかさむところで断念されたという現状でございます。このたび、令和5年度で事業をさせていただきますのは、可能性を調査するというところでございまして、そちらの木合谷川の小水力発電とは別で、佐治地域で小水力発電の可能性があるとところはまだ複数ありますので、その部分で新たに小水力発電をさせていただくということを前提に可能性の調査、FS調査と申しますが、それをやらせていただくということになります。

したがって、事業を延期されたのは実施の事業を延期されたということで、今度は可能性の調査ということで、やはりしっかりと電力の知見があるような業者様を選定していくということになりますので、そちらの事業とこちらの事業は全く違う事業になりますので、また新たに事業者を公募していくというような形になります。以上でございます。

◆浅野博文分科会長 はい、加嶋委員。

◆加嶋辰史分科員 加嶋です。重ねてお尋ねします。選定していくというところですけど、結構具体的な数字が出てきているので、対象となるのが鳥取県内で探されるのか、はたまた国外でもそういう環境コンサルの会社っていうのがあるとは思うんですけども、どういったところを考えられているか方向性をお示してください。

◆浅野博文分科会長 はい、渡邊次長。

○渡邊大輔次長兼経済・雇用戦略課長 経済・雇用戦略課渡邊でございます。このたびの調査と申しますのは、やはり電力だとかそういったものにかかなりの知見を持っておられるようなしっかりとしたコンサル的な業務ができる業者となります。そういうところになりますと、なかなか鳥取県内ではそういった業者を見つけることは難しいのかなというふうに考えております。ただ、今後、実施に当たりまして、地産地消で電気を売電したりでありますとか、設備を整えるでありますとか、そういった部分に関しましては、やはり事業実施に当たりましては地元の企業をしっかりと活用していきたいと考えておりますし、地産地消ということを経済的には考えておりますので、地域のお金は地域で落とせるような仕組みというのも大切かなというふうに考えております。

今回の調査をする業務はやはりコンサルとしてしっかりと全国的な募集になってくるかなとは思いますが、地域で今後実施をする場合に当たりましては、地域の事業者様をしっかりと絡めていくということが必要なかなというふうに考えております。以上でございます。

◆浅野博文分科会長 はい、よろしいですか。そのほかございますか。はい、岡田委員。（「関連」と呼ぶ者あり）関連、では、吉野委員、先にどうぞ。

◆吉野恭介分科員 同じでスマート・エネルギー・タウンの事業費です。過去に全量販売を目的としていた事業者さんはオミットさせてもらって、市のほうの考え、基本は地産地消の考えでやっていくんだよということで方向性が合わなかったということで説明をいただいたんですけど、費用対効果っていうところ、その全量販売ということを目的にしないということであれば、費用対効果の辺りの考え方を少し教えてください。

◆浅野博文分科会長 はい、渡邊次長。

○渡邊大輔次長兼経済・雇用戦略課長 経済・雇用戦略課渡邊でございます。前回の事業につきましては、少し川の場合が少し奥まったところにありまして、そこに工事をするに当たって様々な障害があった、例えば道路が狭いであるとか、そういった部分も含めてその改良につきまして工事なりのことも考えると、なかなか全量販売の中でも費用対効果を計算するに当たって難しいということで、そういった部分で市の補助も可能かどうかというような協議もあった中で、全量販売で収益を上げられるんだしたらその部分、市は費用に関しまして補助はできないというような判断をさせていただいた上での費用対効果が薄いということでございました。

それで、このたびはそういった部分ありますし、脱炭素先行地域に選定されるということにもしなれば、そういった部分での国からの交付もいただきながら事業の展開ができるということになりますので、有利な財源を使いながら費用対効果もしっかりとできるような、そして将来にわたって鳥取市のほうにやっぱり地産地消でお金が回るような形をつくっていくというの

が大前提でございますので、そういったことをしっかりと考えて事業を進めてまいりたいというふうに考えております。以上でございます。

◆浅野博文分科会長 はい、吉野委員。

◆吉野恭介分科員 ありがとうございます。安心しました。事業内容の（2）に脱炭素型EV物流モデルの構築検討事業って書いてあるわけですが、車両をEV化したりだとか、配送のステーションの拠点を設けるだとかっていったようなことを、総括質疑も答弁しておられました。受け取り側の仕組みっていうんですか、今日もニュースで流れておったように、配送者が家庭訪問しても受け取る人がいないので配達ができないよっていうようなところの仕組みっていうようなことも併せて検討されるのかどうかという辺りを教えてください。

◆浅野博文分科会長 はい、渡邊次長。

○渡邊大輔次長兼経済・雇用戦略課長 経済・雇用戦略課渡邊でございます。今、宅配なりっていうことをされるに当たって、受け取られる方が不在でまた持ち帰って再度っていうようなこともかなり業務の負担にはなっておるとことは聞いておるところでございます。ただし、このたびの事業につきましては、まずモデルをつくっていく、地産地消のエネルギーを地域で活用する有効な手段、それから今の物流に対しての様々な問題がかなり今後、2024の問題、そういったものもありますので膨らんでくるということをまず解決していきたいということでございます。

そういった部分でのシステムの形をつくっていききたいということでの調査に入らせていただくということになります。受け取りの部分の仕組みという部分は、この事業だけではなくて、全ての全国的な部分でもありますので、なかなかその部分は新たな仕組みなりっていうものも当然あると思いますけれども、そういった部分も、もし可能であれば協議の中には入れられるかもしれませんので、そういった部分も含めて考えてはいきたいとは思っておりますが、まずはこの電気をどうやって使って地域に還元させていくか、そういった部分の事業になるのかなというふうに考えております。以上でございます。

◆浅野博文分科会長 よろしいですか。はい、じゃあ、岡田委員。（「関連いいですか」と呼ぶ者あり）関連、ごめんなさい。では、金田副委員長。

◆金田靖典副分科会長 金田と申します。全く疎くて教えてほしいんですけどね、災害時の非常用電源としても活用するというので、モデリングをこの資料の6ページのところに示していただいているんですけども、このバッテリーパックっていうそのものが、これは汎用性があるというのを前提にして、ここに書いてあるようないろんな今、老人用のは電動ですけども、そのほかにはいろんな宅配だとか、バイクだとかというのがいろいろできるようになっていますけど、バッテリーそのものの汎用性っていうのはある程度統一化できるっていうことですかね。

◆浅野博文分科会長 はい、渡邊次長。

○渡邊大輔次長兼経済・雇用戦略課長 ありがとうございます。経済・雇用戦略課渡邊でございます。今メーカーのほうでも汎用もかなり実現をしております。それで、こういった事業を県外ではありますけども、このバッテリーパックを使った宅配でありますとか、そういったことをやっておる事業者はおられます。そういった部分で汎用性はかなり広がってきております。

メーカーによっても、こういった規格といいますか、そういったものを使えるようにということで、メーカーもそういったものを作っておられますので、そういった部分で汎用性をしっかりと確かめる今回の研究にも調査にもなりますので、そういった部分をしっかりと研究しながらやっていかせていただきたいと思っております。ただ、汎用の段階にはもう入っておる、そういったものでございます。

◆浅野博文分科会長 はい、金田副委員長。

◆金田靖典副分科会長 充電ならね、ソケットだけ統一化すれば、J I S規格の中でやれば十分なんですけど、バッテリーということになるとね、ホルダーのところからの問題になるもんだし、それから電流・電圧の関係もあるだろうし、検討事業ですから、その辺はこれからの検討課題なんだろうなと思えますけど、そういう形で統一化されていくというのが流れたと思っておけばいいということですね。分かりました。ありがとうございました。

◆浅野博文分科会長 はい、この事業に関しては、ほかにございますか。よろしいですか。はい、じゃあ、岡田委員。

◆岡田信俊分科員 それでは、事業別概要書 140 ページの下段です。雇用促進協議会支援事業費ということです。先ほど部長の御挨拶にも、高校生の就職率等々のお話もあったんですが、この事業の実績を見ますと、令和2年度が高校生の企業見学会、令和3年度が高校生の出張企業説明会でそこに説明企業、参加者等書いてあるんですが、令和4年度が同じもので説明会企業、それから参加者等もかなり数が減っておるのが気になるんですけども、勝手にコロナの影響かいなと思ったりもしているんですが、その辺説明お願いします。

◆浅野博文分科会長 はい、渡邊次長。

○渡邊大輔次長兼経済・雇用戦略課長 経済・雇用戦略課渡邊でございます。以前より、やはりコロナということは影響があるというのは否めないところでございますが、もう一つ、このたび、新規の事業で 142 ページの上段で、雇用促進協議会支援、これコロナの臨時交付金を使ったという、若者にブランディング事業といまして、若者のブランディングをする事業でございまして、高校生、それもまだ就職とか将来の方向を見つけていない1年ですとか2年生、若い段階で地元の企業と触れていただくと、そういった事業も新たに取り組んでいくということで、これは臨時交付金で新規の事業ではありますけれども、別仕立ての事業ではありますけれども、同じ雇用促進協議会でやらせていただいております。これは今年度、令和4年度も事業実施をさせていただいております。こういった事業、少人数で学校でまず研究して、企業に出向いて、また、振り返りをやるっていうようなことで、しっかりと企業の皆様ともお話をする機会を、少人数ですから、各学生もできるというようなことで、かなり有効な事業でないかなというふうに考えております。こういった事業をこのコロナ禍でということ新たにやってきたということで、少しずつこういった企業説明というような事業に取り替わるといいますか、打って変わるようなことも検討しながら事業を進めております。

です。ですので、全体的にはしっかりと高校生と企業とのつながりをつくっていくというようなことは変わらずやらせていただいております中で、コロナの時期も併せてどういった事業が一番有効なのか、それから今後将来を見据え、どういう事業が有効なのかというものも考えながらやっ

てきた結果ということになるかなというふうに考えております。

◆浅野博文分科会長 はい、よろしいですか。そのほか、ございますか。はい、米村委員。

◆米村京子分科員 何点かお願いしたいんですけども、概要書138ページの下段なんですけど、大型空き店舗対策事業費が一応550万円上がっているんですけども、4年度、3年度、2年度を見ても、なかなか1件とかそういう状況になってるっていうのはどういうのかなというのが1つと、大型店っていうのは、もうトスクはもう駄目になっちゃったでないですか。どういうふうにトスクの、要するに関わった人たちを救済できるのかっていうのがちょっと疑問なのと、そのときに大型店の店舗対策とは関係ない部分だとは思いますが、もう、そのトスクがなくなるっていうことに対しての鳥取市、経済観光部の考え方、ちょっと教えていただけませんかでしょうか。

◆浅野博文分科会長 はい、大野部長。

○大野正美経済観光部長 この事業の大型空き店舗の定義ですけども、50坪以上ということで、トスクになるともう50坪どこの騒ぎじゃない。かなり大きなあれになるんですけど、想定しているのは町なかの商店街とかそういったところの空き店舗で一定規模以上のもの、あまり小さすぎるものはまたちょっと別の形でケアしていくことになると思うんですけど、まとまった面積のある店舗を活用される場合に支援をしようというのがこの制度です。令和2年、3年、4年と実績が1件、1件、今年度ゼロ件ということになっているんですけども、比較的、毎年コンスタントに活用はいただいているというふうに認識しております。

ただ、コロナの状況があって、例えば飲食店の出店が控えられたりとか、そんな影響もやっぱりあったんだろうなというふうに思っておりますので、これからアフターコロナで需要がまた出てくるのかなというふうに考えておりますので、そこは引き続きマッチング進めていきたいなと思っております。

それと、トスクの件については、まだ正式発表にはなっていません。4月の総会で正式に決まるという流れになるんですけども、影響はやっぱりかなり大きいというふうには認識しておりますが、その空き店舗を、市内にもその本店だけではなくて、吉成のほうにも店舗がございまして、そういったところの活用を引き継いでいただける事業者がいるかどうかということで、その辺の話も水面下で動いているというようなことは伺っておりますので、その辺の状況も見ながら市としてはできる対策を打っていききたいなというふうには考えております。もう少しそれなりの状況を見極めたいなと思っております。以上です。

◆浅野博文分科会長 はい、米村委員。

◆米村京子分科員 すみません。状況を見守る今の現在の状態だということで理解しといたらよろしいでしょうか。それともう1つ、もうトスク、やっぱりすごいショックなんですよ。一般市民の人にとっても、本当になくなるっていうこと自体、あの大きな建物がなくなるってこと自体がすごい衝撃的な出来事だったと思います。でも、すみません。次に入らせてもらいます。いいでしょうか。委員長、私が聞きたいことをこの場でざっと言ってもいいですか。

じゃあ、すみません。予算書289ページだったと思うんですけど、中小企業金融対策費っていうのがあるんですけども、もう中小企業、これから厳しい状態が続いてくると思うんですよ。

それともう1つ、倒産とか廃業とか、お金が返せないというような状況になってきた場合は、鳥取市はどういうふうを考えていらっしゃるのかちょっとお伺いします。

◆浅野博文分科会長 はい、大野部長。

○大野正美経済観光部長 特にコロナ融資が過去にない額で貸付事項が行われております。状況としましては、融資の返済がほぼ始まっております。そのうち、いわゆる代弁済、コロナ融資につきましては100%信用保証協会の保証がついておりますので、保証協会で焦げついた場合は代返済するという形になっております。そういった代弁済についても数十件出てきているというような状況ではございます。率としてはそんなに高くはないんですけども、数としてはやはり出てきているということで、ある程度、代弁済が出てくるというのは、これは当初から想定された範囲内かなというふうには思っておりますけども、ほかにも、その融資の返済条件の見直しとか、そういったところも金融機関のほうで柔軟な対応するよというということで、国からの意向もあって融資条件の見直しなんか金融機関積極的に取り組んでいただいておりますので、今のところ、倒産件数については表立って増えてはきておりません。

ただ、状況的にはもうコロナの状況というよりも、原材料費の高騰とか、燃料費の高騰とか、そちらのほうは今、じわじわ効いてきている状態ですんで、むしろそっちのほうの状況を懸念をしなければいけないかなと思っておりますので、その影響がこれからどれだけ出てくるかというところは、うちとしても注視していかなければいけないかなというふうには考えております。以上です。

◆浅野博文分科会長 はい、米村委員。

◆米村京子分科員 本当に今年度はいいみたいなんですけども、本当にこれから来年度とか、そんなん出てきたときにも、もうこの倒産、廃業のほうが多くなってくるような気がするんですよ。やめるっていうこと、お店をやめる。この辺での救済措置がまだまだ来年度のところで起きてきたらいいかなとは思ってるんですけども、これはちょっと余談でした。もう少し聞きたいことがありますけども、中小企業が倒産・廃業ということになってきてしまうと、もう実際のところ、中小企業のおり場がなくなってくるような気がするんですよ。これっていうの、大して今のところ倒産に対してのパーセンテージないと言われましたけど、目に見えないところでぐんぐん出てくるような気がして、すごく怖さを感じているんですけども、その辺のところの覚悟みたいな、よろしくをお願いします。

◆浅野博文分科会長 はい、大野部長。

○大野正美経済観光部長 覚悟ということなんですけども、我々もやっぱり相当な覚悟で、このコロナ禍、臨んでまいりましたし、今までない規模で融資の予算も組んでまいりました。私もこれだけの規模の制度融資というのは、もう長いこと商工に携わっておりますけど、記憶にございません。市も全体挙げてそれだけの予算を確保していただいて、当然、県や国からも支援をいただきながら、何とか乗り切ってきたという状況でございます。これから実際にどれだけ倒産が出てくるかということは、今のところではなかなかちょっと推測しがたいところもありますけども、ただ、全国的に見れば、確実にやっぱり倒産は増えてきております。たまたま鳥取がまだ顕在化してないという部分もあるんだろうなと思っておりますけども、増えてきている

要因は、コロナ禍でそもそも、通常でも事業の継続が難しかったようなところが、このコロナ融資によって、一時的にこう生かされてきたというような側面もございます。ですから、それは通常のやっぱり金融のベースとは少し違う部分で企業が延命してきたという部分もありますので、その部分はやはりこれから副作用としてたくさん倒産は出てくるということは当然考えられるかなと思っておりますが、鳥取でもやっぱりそういったことがこれから出てくることは十分考えられるというふうには思っております。

ただ、金融機関も含めて、資金的には十分な手当てを地元の中小企業には行ってきたというふうに考えておりますので、そこがどれだけ出てくるかというのをやっぱりちょっと推移を見守る必要があるかなというふうに思っております。以上です。

◆浅野博文分科会長 はい、米村委員。

◆米村京子分科員 悲観的なことばかり言ってちゃいけないと思うんですけども、でも、なかなかこの中小企業っていう存在、もう国は大きいとこばかりを、企業はね、擁護している部分があつて、もう中小企業はもうどんどんどん潰れればいいみたいな、そういう感覚があるんで、ちょっとその辺のところはやっぱり考えていかなきゃいけないんじゃないかなと思いました。それで、次に移りますけれども、いいですか。

◆浅野博文分科会長 はい、じゃあ、ちょっと関連して、加嶋委員。

◆加嶋辰史分科員 加嶋です。今、米村委員はその思うというふうには言われて、想定されて覚悟を述べられたわけですけども、実態調査だとか、現実を把握していく中で経済観光部としてはどういったところに聞いたり、どういった数字を見ていこうとして対応していくのか、その方針もお伺いします。

◆浅野博文分科会長 はい、大野部長。

○大野正美経済観光部長 統計を見ていくというのもこれは基本的なことになると思いますけども、ただ、統計というのはものすごくタイムラグがありますんで、なかなかやっぱり実態と乖離するケースが多ございます。ということで、このコロナの先ほどの融資の代弁済の数等も、これも実際に信用保証協会であるとか、あと、経済団体とかいろんなところに今の事業者の状況をもう直接聞き取りながら実態を把握していきたいなと思っております。そうすることで、よりタイムラグのない企業の温度感をつかんでいきたいなというふうに考えております。以上です。

◆浅野博文分科会長 はい、加嶋委員。

◆加嶋辰史分科員 すみません。意見です。米村委員の意見もありました。私は、国は中小企業を見捨てる気はないと思っております。現に商工振興費をきちんと予算化できているというのは、それが証拠だと思いますので、引き続き、その温度感を見ながら寄り添って伴走型の支援をしていただきたいと思います。以上です。

◆浅野博文分科会長 はい、この件に関しましてよろしいですか。じゃあ、引き続き米村委員。

◆米村京子分科員 じゃあ、引き続きお尋ねしたいんです、保証協会ありますよね。保証協会の役割っていうのはすごく大事になってくると思うんですけども、でも、なかなか保証協会とうまくいかない部分のときがあった場合は、すごい大変な気持ちになってくるんですけども、保

証協会をやっぱり重要視しなきゃいけないっていうの、その辺のところもちょっと教えていただきたい。

◆浅野博文分科会長 はい、大野部長。

○大野正美経済観光部長 保証協会は融資においては企業の生命線であります。保証協会の保証が得られないと、特に小規模な企業にとってはなかなかやっぱり貸付実行が受けられないというような状況がございます。ただ、今回は、やっぱりコロナ禍については、通常だったら保証がつけられないようなものも保証協会が保証をつけて、下支えしてきたという状況がございますので、本当にここはやっぱり過去に例がない条件緩和をして貸付実行してきたということだろうと思います。

ですから、先ほど申し上げましたとおり、もともとやっぱり倒産をしそうなところも、通常だったら保証が全くつかないようなところも貸付けをしてくれておりますので、その副作用がどれだけ出てくるかというところは注視していかなくちゃいけないかなということでございます。以上です。

◆浅野博文分科会長 はい、米村委員。

◆米村京子分科員 関連はもうよろしいでしょうか。じゃあ、すみません。次に入らせてもらいますけども、148 ページの下段の企業地域推進事業費っていうのがものすごい今回上がってきているんですが、その要因は何だったのかっていうのをちょっとお聞きしたいと思っております。

◆浅野博文分科会長 はい、西田課長。

○西田茂樹企業立地・支援課長 企業立地支援課西田です。この企業立地推進費につきましては、事業別概要にも載せていますけども、新たな工業団地の整備の検討ということで、適地調査の費用にこれ 441 万円と、それから3番のところで既存工業団地の長寿命化ということで、高浜工業団地の地盤沈下への対応のということで、これも調査費として 695 万 7,000 円ということで、これ合わせて 1,130 万程度増ということになっています。具体的にはこの2つの事業によりましてこの企業立地推進費が増となっているものがございます。その他の事業予算につきましては、ほぼ変わってないという状況でございます。

◆浅野博文分科会長 はい、米村委員。

◆米村京子分科員 ありがとうございます。その件に関しては、その辺を聞きたいと思いましたが、もう大型店じゃなくて企業誘致もなかなかこれから難しくなってくると思うんですよ、実際問題。その辺のところ、いろんな企業に照らし合ってもものすごい努力していらっしゃるの見えるんですけども、もう誘致に対してのもう推進していくためには、もう1つ2つギアを入れていかなくちゃ難しいと思うんですが、その辺のこともまた覚悟ばかり言って申し訳ないですけど、覚悟をお願いします。

◆浅野博文分科会長 はい、大野部長。

○大野正美経済観光部長 我々もいろんな分野で覚悟を持って仕事はさしていただいているつもりでございます。企業誘致については、いろんなやっぱりこのコロナ禍の状況も含めて思うように営業ができない部分とか、あと、企業のほうも業種によっては積極的にやっぱり投資をしている業種もあれば、やはり業況によって投資を控えてきたというような業種もありますので、

その辺の状況もにらみながら、いろんなできることはやってきたつもりでございます。ただ、状況としましては、最初にも申し上げましたとおり、人材の確保が非常にタイトになってきております。そこを解決していく解決策もやっぱりセットで提供していかないと、なかなかやっぱり誘致はできないという状況になってきてますんで、そこはいろんなやっぱり人材確保の施策でありますとか、あともう1つ、最近の企業の立地動向の特徴的な部分としては、再生可能エネルギーが手に入るところを志向される、そういう傾向がございますので、鳥取市においても再生可能エネルギーの地産地消が進んでいく、そういう土壌をしっかりとつくりながら、企業のほうにプレゼンをしていく必要があるかなというふうに考えております。

人材がタイトな中でも、やはり企業の投資というのは出てまいりますので、そこをいかに鳥取に取り込んでいくかということを考えながらやっていきたいと思っておりますし、例えば国においては、今、一番象徴的なのは半導体をとにかく国内にきちんと製造できる体制を整えていこうということで、熊本県なんかには大規模な半導体工場が立地をすることになっております。今、急ピッチで整備を進めておりますが、あれクラスの誘致になると、1つの町が何個かできるぐらいのものすごい大変な作業になりますが、人口も1万人単位で増えていくというようなことで、外からどんどん人が逆に入ってくるというような流れになりますので、そういう流れもつくっていくってということも1つの方策かなと思います。それなりの企業が来れば、地元の人材が不足していても、やっぱり外から人が入ってくるという流れになりますので、それで、そういった施策を進めてきた象徴的なのが、山陰地方ではやっぱり出雲市になります。出雲市は村田製作所、富士通はじめ大手の工場をたくさん誘致をしてきて、県外も含めて外から労働力がどんどん集まってきたというような流れをつくっておりますし、山陰地方では唯一人口がほとんど減少していない市ということになっておりますんで、それはもう計画的にずっと大規模な企業誘致、工業団地も造成しながら進めてきたという経緯もありますんで、そういったことを目指すということも1つの方法かもしれません。ただ、工業団地つくっていくにはそれなりの財源が必要になりますんで、そういったところもどうするかということも考えながら、総合的に検討していきたいなというふうには思っておりますんで、引き続き誘致には力を入れてまいりたいというふうに考えております。

◆浅野博文分科会長 はい、米村委員。

◆米村京子分科員 すみません。今、そんな覚悟なんか聞いて、ここでは聞く必要ないって言われたんで、ちょっとあれですが、何か覚悟、覚悟って言って申し訳ないです。近い将来的にやっぱりこの企業誘致は、もう本当にいい形で作用すればすごくいいかなと思っておりますので、その辺のところもこちら感覚で出雲なんかとか、村田製作所なんか、鳥取市も鳥取独特の何か企業を本当に1,000人規模の雇用のできるような企業が誘致できたらなと正直思っております。私の質問はこれで終わります。

◆浅野博文分科会長 はい、じゃあ、そのほかの委員の皆さん。はい、石田委員。

◆石田憲太郎分科員 ちょっと関連してですけども、今の③のところの高浜工業団地の地盤沈下への対応ってということで、これは団地全体を調査されるんでしょうか。それと、ごく最近増設工事をされた企業があるかと思っておりますけども、そのあたりの沈下に対する、そのあた

りを想定された工事を企業はなされたのかどうか、ちょっとそのあたりを教えてください。

◆浅野博文分科会長 はい、西田課長。

○西田茂樹企業立地・支援課長 企業立地支援課西田です。まず、今回の調査でございますけども、高浜工業団地の地盤沈下につきましては、一番のこの沈下が激しいというのが中心辺りなんですけども、市道と市道が交差しているところがございます、その周辺ですと、田中製作所さんですとかエイトさんがあるあの辺りなんですけども、過去数年前にも道路の陥没という沈下がありまして、その修繕をしておるんですけども、今回同じように市道がかなり沈下しているというところと、それから田中製作所さんの敷地内が一部かなり沈下しているという部分がありまして、そこを中心にその周辺を今回調査をしようということで、地下の構造が分かるような電気というか振動ですね、それを与えてこの反射で地下の硬さとか、そういうものが分かるようなそういう調査を試みようということで。一番そこの団地内の事業者さんで懸念されているのが、空洞ができていとかということになると、急に穴ができるというようなそういう不安があるというところで、まずはそういうものがないかどうかということで地下の状況を調査をさせていただこうというものです。

周辺の企業さんで増設された企業さんもございましたけども、今後こういった沈下のために建物に影響が出ているとか、そういう場合に、新たな設備投資をされる場合に沈下の対応のために余計な経費がかかるというようなことが生じる場合に、そういった場合に支援をできるような、そういった制度も将来的に制度設計したいなということも考えながら、今回はまずは現状把握ということで地下の状況を調査したいというものでございます。

◆浅野博文分科会長 はい、石田委員。

◆石田憲太郎分科員 あそこは多分それこそ旧気高町時代に造成された土地だと思っておりますし、私もあんまりよう承知はしとらんですけども、もともとの整地の段階のときにいかがだったんだろうかっていうようなことも何か聞いたり何やりしとるんですけども、今後、例えば、これ調査されて、例えばその地下に空洞があるかどうかというの分かんんですけど、その辺りのことで問題あるというような調査結果が出てきたときに、その辺りの地盤改良なり何なりとかいうようなところっていうのは、どこがどういうふうに対応していったり、そういう流れになっていくのか、ちょっと聞かしていただくことはできますかね。

◆浅野博文分科会長 西田課長。

○西田茂樹企業立地・支援課長 企業立地支援課西田です。団地の造成地につきましては既に企業様が全て立地されてますので、そこの地下をまた地盤改良するというのは困難かというふうに考えておりますので、現状で沈下の影響が出ているそれを修繕するとか、新たな、先ほど申し上げました設備投資の場合に余分な経費がかかるというような場合に対する支援、市としてはそういう投資に対する支援というのを検討したいなと思っておりますし、あと、団地内のインフラですね、そういったものにつきましては今後やっぱり影響が出るようでしたら、根本的な改良が必要でしたらそういう対策もしていけないのかなというふうに考えております。

◆浅野博文分科会長 はい、よろしいですか。ちょっと。

◆金田靖典副分科会長 じゃあ、委員長。

◆浅野博文分科会長 ちょっと今の、高浜工業団地の調査についてですけども、あそこも精密機械とかございまして本当地盤沈下がかなり影響ありますので、しっかり調査をしていただきたいと思うんですけど、その調査のスケジュールみたいな、もし分かっとれば教えていただけますでしょうか。

◆金田靖典副分科会長 西田課長。

○西田茂樹企業立地・支援課長 企業立地・支援課西田でございます。この調査につきましては、年度始まったらすぐにもまずは業者を選定して調査を始めたいと思っています。今、想定していますのは数か月、分析まで含めてですね、かかるというふうに聞いております。道路とか、それから企業様の敷地内に電極とかを張って調査をするということですので、そういったこの調整もしながらさせていただきたいと思っていますけども、早急な対応が必要だと考えていますので、年度が始まりましたらすぐに対応したいと考えているところでございます。

◆金田靖典副分科会長 はい、浅野委員長。

◆浅野博文分科会長 もうこれ何年も前から市のほうにも依頼があったと思うんです。しっかりと対応していただきたいと思いますので、要望でよろしくお願いいたします。

はい、それではそのほかございますでしょうか。はい、吉野委員。

◆吉野恭介分科員 概要書でいうと162ページ、まちなか観光推進事業費です。これ事業内容に三階櫓のARコンテンツの制作っていうことで、京都府などで歴史上の建造物の復元に実績のある大阪大学と連携っていう説明が総括質疑でもあったわけでありまして、私としては地元の大学を育てて、ぜひ育ててほしいなって。あらゆる分野に発展性のある技術だと思っておりますので、大阪大学はもちろん連携してされたらいいんですけど、その中に鳥取大学であるとか、環境大学であるとかいったことの何か一緒に技術を習得してもらい、大学側にそういったスタンスがなければ駄目だとは思いますが、ぜひ何か地元の大学でやれないのかなっていうところをちょっと要望したいと思ったり、そうした考えがこの事業の中に盛り込めないのかなということをお尋ねしたいと思ったり。

◆浅野博文分科会長 はい、平井課長。

○平井宏知観光・ジオパーク推進課長 観光・ジオパーク推進課平井です。今、議員さんがおっしゃられたとおり、まずはこれ大阪大学の准教授の方との、大阪大学側におけるスタンスを確認する必要があると思っております。一番は今、総括質疑でもお答えさしてもらいましたが、京都のほうでそういう実績を有しておられるっていう、歴史的な建造物の復元という少しやはり特殊な、それから歴史的な背景やその再現度っていうようなことも多分実績等を考慮する必要があって、こういった経過で大阪大学さんを、今、選定して進めようとしているんですけども、例えば、今お話にありました、この三階櫓の復元の過程の中でARに当たる技術とか、地元のそういう、例えば鳥取のほうの大学のどのレベル、学生さんなのか、あるいは学部としての対応なのか分らないんですけど、そういった参画が可能なのかということ、いずれにしても大阪大学の准教授さんのほうにお話を伺って、そのスタンスを確認した上で対応させていただくという、現段階ではそういったお答えになろうかと思っておりますので、我々として

もそういった御意見を受けてお話は聞いてみたいというふうに思っております。以上です。

◆浅野博文分科会長 はい、吉野委員。

◆吉野恭介分科員 検討いただけるということで、ありがたいなと思います。ぜひ行政がそうした、いい意味でのつなぎ役になっていただければなと思っております。要望です。

◆浅野博文分科会長 はい、そのほかございますか。はい、中山委員。

◆中山明保委員 中山です。事業概要の153ページのSDGs未来都市推進事業ということで、昨今もSDGsということなんで、これが実績として令和3年度1,000万ちょっと、令和4年度は1,800万、来年度といいましょうか、5年度が2,700万と、段々と増えているんですけども、今後SDGsどんどんとやっていかなければいけないということなので、そういうのでどういう経過で増えていったのか、それと統合的取組として7番のプロジェクト運営経費が280万と情報発信の経費が800万、この内容についてちょっとお聞かせ願えればと思います。

◆浅野博文分科会長 はい、西田課長。

○西田茂樹企業立地・支援課長 企業立地・支援課西田でございます。このSDGs未来都市につきましては、令和3年度に選定をされたものでございます。この令和3年の9月に予算化をさせていただいたんですけども、これ国の地方創生推進交付金を活用させていただいております。ですから今のところ3年間ですね、令和5年度までこの交付金を活用して事業を進めていくということで、当初からその年次的な計画を立てさせていただいております。

予算額が増えていっているということですけども、補助事業を新たに追加をしていったりとか、見直しを行いながら事業を新たに変わっていったりしているんですけども、その中でこのSDGs未来都市の推進ということで、会計年度任用職員を1名配置をしているという、その人件費がここの事業別概要の先ほどの7番のプロジェクト推進協議会の運営経費等というところで、人件費が主なものでございます。それと、SDGs未来都市をPRするという、計画をPRするという、ホームページを作成を、これも昨年の春に公開をしとりまして、この発信経費等につきましては、ホームページの維持管理ですね、維持管理費用が一部入っております。というところで、未来都市のこの事業をPRしていこうということで、ホームページでありますとか、それから各企業さんにSDGsに取り組んでいただこうということで、企業向けのセミナーを来年度につきましては開催をしたいというふうに考えておりますし、それから各ステークホルダーと言っていますけども、このSDGs未来都市の計画に賛同していただいている企業様のそれぞれの活動を、こういうイベントでありますとか、PR活動等、情報発信も含めて、そういうものを行っていただく場合に、市がそれを支援させていただくということで、これも補足資料にも載せておりましたけども、400万確保しております。補助率2分の1で上限100万ということで一応4社分ですね。想定をして予算を組ませていただいております。そういったところで、この情報発信経費、そういったものもちょっとボリュームアップをさせていただいているところが主な予算の増の内容でございます。

◆浅野博文分科会長 はい、中山委員。

◆中山明保委員 3年計画だということなので、まず、総括的に効果といいましょうかね、これまでのいきさつというのもお聞かせ願って、3年間が終わった後の見通しというのはどんな感

じでしょうか。以上です。

◆浅野博文分科会長 はい、西田課長。

○西田茂樹企業立地・支援課長 企業支援課西田です。この食とエネルギーの地産地消を推進して新たな農村モデルを構築するということで、再生可能エネルギーを地産、なおかつ地消、消費をしようというところでも取り組んでおるんですけども、その中で新たな電源開発というところで、微生物発電の実証実験、これに対しまして市としては支援をさせてきていただいております。これも毎年補助をさせていただいてまして、今、鹿野の田んぼをお借りして実証を進めておるんですけども、なかなか理論上の数値が出てきてないという中であって、徐々に成果が出つつあるというところで答弁もさせていただきましたけども、電灯をつけて、ここで電気がつくられているということが分かるような、そういう仕掛けもさせていただきまして、実証が進んでいるということをごPRもさせていただくとございます。

また、先ほど申し上げました、ホームページ等によりまして、SDGs未来都市のPRもさせていただいているんですけども、昨年春でしたけども、このSDGs未来都市をPRするため、ロゴマークを募集いたしました。これ公募したんですけども、それで採用させていただいたデザインというのが鳥取砂丘をイメージしたようなデザインなんですけども、これを庁舎内でもいろんな場面で活用させていただこうということで、今、市報の表紙の右下にそのロゴマークを載せていただいております。それから特集記事ということで、昨年の11月から鳥取市SDGsを盛り上げようということで、ステーキホルダーの御紹介と各ステーキホルダーが取り組まれているSDGsの取組、そういったものを市民の皆さんにもPRしようということで、そういったこともやっております。そういったような徐々にこのSDGs未来都市の取組を市民の皆さん等に浸透させていっているのかなと思っています。

このもともと未来都市計画というのは2030年のあるべき姿ということですので、当然2030年まで各種事業を継続していきたいというふうには考えておるんですけども、ひとまずこの現状でしたら国の推進交付金につきましては3年間で終わりということをございますけども、また、新たな財源の確保を検討しながら、引き続きこの目標の達成に向けて各種事業は継続して行っていきたいというふうにございます。

◆浅野博文分科会長 はい、中山委員。

◆中山明保委員 詳しく説明いただきましてありがとうございます。3年度で交付金がなくなったらやめるということに言われんかなと心配しておりましたが、引き続き頑張られるということで、頑張ってください。頑張りましょう。以上です。

◆浅野博文分科会長 はい、そのほかの委員の皆様ございますか。はい、石田委員。

◆石田憲太郎分科員 委員長、何点かまとめて一括で聞いてもいいですか。

◆浅野博文分科会長 はい、どうぞ。

◆石田憲太郎分科員 じゃあ、すみません。事業別概要書の145ページの下段ですけども、物産振興事業費です。今年度予算がかなり増額しておりますが、これの内容というのが物産展等への出展のほうをメインとした増額なのか、その下に食ブランド創出があって、大学と連携をして成分分析とか、科学的データで特色を示したようなそういう商品を開発してブランド化して

いくんだというふうにありますけども、これについては事業実績の中にも全然表れてこないの
で、今までこれについての実績は全くないのかなというふうに思っておりますが、この辺り、
例えば今年度とか、そういうふうな見込みとしてはあるのかどうかちょっとお伺いしたいです。

それから次に146ページの下段のインターネットショップ事業費なんですけど、平成29年から
ふるさと納税とシステム統合されて運用されていらっしゃるということで、事業実績の中の括
弧のこの別事業による売上げというところが、この統合した部分のふるさと納税の返礼品の部
分の売上げになってくるのかなというふうに理解をしとるんですけども、まずそれで間違いが
ないかどうかちょっと聞かせてください。

◆浅野博文分科会長 はい、渡邊次長。

○渡邊大輔次長兼経済・雇用戦略課長 ありがとうございます。それではまず物産振興のほうで
お話をさせていただきます。予算の増額につきましては、おっしゃられるとおり、食ブランド
創出事業、これは今年度新規に実施をさせていただく事業というふうに考えておるところでござ
います。この事業につきましては、鳥取にやはりブランド的な物産をしっかりと作って、それを
ほかの地域でも売り出していけるというようなことを目途に考えていきたいという事業でござ
います。

この事業につきましては、鳥取の特産品様々あると思うんですけど、その中でこういった
ものが、成分でありますとか、そういったものをしっかりと研究調査をさせていただいて、こ
ういったものがこういったものとしていい成分で、こういった皆さんが好まれるものだという
ことを、そういったものをしっかりとブランドに付加価値をつけながら、鳥取の品物として皆
さんのほうに知っていただきたいという事業でございまして、そのために大学等の知見を借り
て、様々な商品の調査をさせていただきたいというふうに考えております。そのための費用で
ございまして、今年度はまず商品選定をしっかりとしていきたいと。令和5年度につきましては
はその商品選定をしっかりとしていきたいと、それで令和6年度以降にはその販売戦略であ
りますとか、そういったものをやっていくというような流れでございます。ですので、この事
業は新たな事業としまして、まだ実績というものはございません。今後重ねていきたいという
ものでございます。この部分の費用が増えておりますので事業費としても増額というふうにな
っております。

続きまして、インターネットショップの事業費で別事業による売上げというふうに書いてご
ざいます。インターネットショップ事業費、こちらにつきましては令和2年、令和3年、令和
4年度ということで、コロナ臨時交付金を使わせていただきましてインターネットショップで
はあるんですけども、様々なキャンペーンをさせていただけるということで、そのキャンペ
ーンを使った上での売上げがかなり増えております。例えば商品の20%オフであるとか、30%オ
フであるとかそういったこと、送料を無料にするであるとか、そういった部分で売上げがか
なり増えておまして、その部分を別事業というふうに入れさせていただいておまして、売
上実績に内包されているということでございます。ですので、その事業がなければ、事業費と
すればこの分を引いた金額ということになりますんで、少しぐっと落ちてくるのかなというこ
とになります。以上でございます。

◆浅野博文分科会長 はい、石田委員。

◆石田憲太郎分科員 分かりました。私はこの別事業は今の認識ではなくて、本当にまた別の事業なのかなっていうふうに思っておりましたもので、これに包含されとるということですけども、実際このキャンペーン的部分の売上げを引きますと、三千六百万とか二千六百万、三千八百万ということで、そういう金額になるわけですけども、やっぱりキャンペーンを敷かないとなかなか売上げそのものは、あまり伸びていないのかなというのが正直な感想でありまして、これについて今後どういうふうに取り組んで行こうとされとるのか、その辺ちょっと聞きたいのと、すみません。

それから154ページの上段です。農商工連携マッチング事業、この事業は商工会議所のほうに委託されとる委託事業で、毎年584万円というような金額でずっと推移をしてきているようでもありますけども、この委託事業①から⑤までありますが、この事業で実際、期待している効果といますかね、その辺りは毎年毎年どういうふうな形として、その成果を分析をされていらっしゃるのか、あと、ここに書いてある事業実績の、この支援件数というこの意味はどういう件数のことなのかお伺いしたいです。

あと最後に、すみません。1点、その隣155ページの上段の恋人の聖地の件ですけども、金額がかなり予算が昨年度に比べたら上がっておりますけども、この事業内容についてお伺いしたいと思います。以上です。

◆浅野博文分科会長 はい、渡邊次長。

○渡邊大輔次長兼経済・雇用戦略課長 経済・雇用戦略課渡邊でございます。まずはインターネットショップでございます。キャンペーンなしではかなり売上げが下がるということでございます。令和元年度につきましては、これはコロナ前ということになります。2,300万円程度の売上げでした。その後キャンペーンをしながらということではありますけれども、かなりの増額、令和4年度につきましては、まだ最終ではなっておりませんが、このキャンペーンを除いたものにおきましても金額的には3,600万以上の金額になっております。ということはやはり令和元年度からキャンペーンを除いても着実に売上げは伸びていっているといった状況でございます。そういった意味ではインターネットでの販売というのは全国的にもやっぱり必要なものと考えておりますし、重要な売上げの販路の1つではあるのかなというふうに考えておるところです。そういった部分で今後はコロナ臨時交付金のキャンペーンはなかなかできませんが、今までの委託料の中で改めて委託を受けていただいている観光コンベンション協会の物産部さんなりとも相談しながら、今までの中でどんなキャンペーンができていくのだとか、そういった部分をしっかりと検討しながら、やはり売上げの増加という部分は今後もやっていきたいと思っておりますし、やはり需要も高まっていくというふうには考えておるところではございます。以上でございます。

◆浅野博文分科会長 西田課長。

○西田茂樹企業立地・支援課長 企業立地・支援課西田でございます。そうしましたら事業別概要154ページ上段の農商工連携マッチング事業費のことでの御質問でした。まずこの支援件数の実績につきましてですけども、この農商工連携マッチング事業費の中でマッチングを支援し

ているんですけども、それが3種類ございまして、地元の企業同士のマッチングをして、素材と素材を掛け合わせて新たな商品を開発していくというようなそういうマッチング支援と、それから専門家によるアドバイス支援ということで、ブランド化とか高付加価値化をつけるためのそういったアドバイス支援事業というのがございますし、それから販路開拓商談支援ということで、県外のバイヤーとの商談会でありますとか、県外の店舗での商品のテスト販売みたいなことですね、そういったことを行っておりまして、それぞれのこの支援事業に参画というか、支援した企業の合計ですね、延べではなくて企業数で支援件数というカウントをさせていただいていますので、例えば令和3年度でしたら58社に対してそういう支援を行ったというものでございます。

こういったマッチング支援とか、商品の磨き上げとか、あとは首都圏への販路開拓に向けての支援とかそういったことを毎年取り組んでおりまして、毎年支援をしている企業もあれば、新たにこれの支援を受ける企業も出てきております。そういった企業はまず増えていくということで新たな商品、高付加価値の商品がたくさん生まれていると。それを県外に販売をすることで販路開拓により売上げの向上につながっているというふうに考えております。その後追いでどれくらいの売上げが上がったかというところまでは、市として把握はしてないんですけども、確実に新たな商品が生まれているものというふうに考えているところでございます。

◆浅野博文分科会長 平井課長。

○平井宏和観光・ジオパーク推進課長 観光・ジオパーク推進課の平井です。恋人の聖地に関して御質問いただきました。前年度当初予算から増額、まず、この80万5,000円というような内容の内訳なんですけども、基本的には白兔、それから小沢見の両観光協会さんが海岸の美観清掃とか美観形成のために取り組まれる委託料というような形での業務委託をまずお願いをしているということと、コロナでちょっと2年、3年とできませんでしたが、この4年度から白兔のほうの海岸で白兔まつりという花火のそういった補助に関する経費、それから恋人の聖地というブランドをいただいとるんですけど、その負担金というような形のものが80万5,000円の内訳になっているんですけども、今回要求させていただくとる400万強の増については、これまで令和3年、4年度辺りに繰越し等も含めてですけど、コロナの臨時交付金を活用して白兔地域、令和元年に西道路が開通して交通量が減少、それから道の駅等も少しお客さんが減少しているというような経過がある中で、地元の観光協会さんや自治会さん、道の駅、神社さん等とでその白兔周辺魅力創造会議というのを立ち上げて、令和2年のこれが7月ですけども、それから令和2年度末辺りからそういう国の臨時交付金を活用して散策道を造ったりですとか、周遊マップを作ったりですとか、スタンプラリーをやったりですとか、これまでいろんなイベントをやってきたんですけども、来年度に当たってはこのコロナ交付金の事業が要するになくなっていくところがあるところがあって、財源にも書いてございますけども、白兔周辺地域魅力創造会議に450万の一応予算を計上しているんですけども、これの2分の1は県のジオパークの補助金を財源として確保するような形で、今、言ったような兎年という年にも当たりますし、事業も少し兎年に向けて停滞することなく進められるようにというような流れで、この白兔周辺地域の魅力創造会議に対する取組の補助を当てさせていただくとるというような内容になります。

主な事業の内容としては、今まだ詳細は決まってないですけど、道の駅を拠点に白兔の丘や神社を巡るスタンプラリーとか、兎年にちなんで道の駅を拠点に定期的に少しイベントを開催するというようなことを今、話し合っているというような状況です。以上です。

◆浅野博文分科会長 はい、石田委員。

◆石田憲太郎分科員 ありがとうございます。インターネットショップのほうの話ではありませんけども、その前段の部分で大学と連携したその商品開発とか、ブランド化とかいうような話もありました。それについてもこれからそういう商品も生まれてくるんだろうというふうに思ったりもしておりますし、先ほどの商工会議所との委託の部分についても、新たな企業さんで新たな商品をとというような話もございました。そういうところの中で、それがまたこのインターネットショップの中でそういう商品も展開をされていけば、また、こちらのネットショップのほうの売上げにもつながっていかうかと思しますので、その辺りの取組しっかり頑張っていたきたいなというふうに思います。以上です。

◆浅野博文分科会長 はい、そのほかございますか。はい、金田副委員長。

◆金田靖典副分科会長 金田ですけども、重複するところもあるかと思っておりますけども、横長の説明資料の10ページの地域経済活性化促進事業費というところが昨年8,300万から今年度1億2,000万ということで4,000万増額になっていまして、特にこの今年度令和5年度の中で、この地域活性化促進事業の中で力を入れておられるところを幾つか教えていただければと思います。

あわせて、観光費のところは15ページですけども、5億1,300万から6億7,000万、1億5,000万上がっています。多分多くは砂の美術館の契約の関係が1億5,000万ありましたから多くはそうだろうと思っておりますけども、観光費の中で、令和5年度で特に力を入れておられる、全てが目玉なんだろうけども、特に力を入れておられる事業があれば教えていただければと思います。

◆浅野博文分科会長 はい、渡邊次長。

○渡邊大輔次長兼経済・雇用戦略課長 経済・雇用戦略課渡邊でございます。地域活性化促進事業費、多数事業でございます。その中でも特に金額が大きく変わっていった部分と申しますのは、やはり先ほどスマート・エネルギー・タウン構想推進事業費、こちらは1点でございます。これは先ほどお話にもありましたが小水力電力の新たな調査でありますとか、EV物流配送、そういったものの調査をするというものでございますし、例えば国際経済交流推進事業費、こちらにつきましては国際交流ということで、このたびはコロナ禍でずっと開催されていなかった経済交流ということで中国の延吉地域での鳥取市のプロモーションをかけていくというようなことをさせていただきたいというふうに考えております。経済・雇用戦略課の事業と申しましても大きな部分と申しましては、そういった部分になってくるのかなと思っておりますので、企業立地・支援課のほうもあると思っておりますので、すみません、企業立地・支援課に代わります。

◆浅野博文分科会長 はい、西田課長。

○西田茂樹企業立地・支援課長 企業立地・支援課西田でございます。本課の事業としまして関係人口推進事業費、これが800万の皆増ということでございます。補足の資料でも詳しく説明

をさせていただきとるんですけれども、ワーケーション取組と、それから関係人口、交流人口を増やしていこうということで、その最終的な目標としましては先ほどもお話ありましたワーケーションからの企業誘致ということもあります。企業を誘致したいというところと、域外からの新たな人の移住ですね、そういったことにつなげていきたいというところで、全て誘致につながるようなそういう取組を、これも1つの一環として捉えている事業でございますので、これについても力を入れていきたいというふうに考えているものでございます。

◆浅野博文分科会長 平井課長。

○平井宏和観光・ジオパーク推進課長 観光・ジオパーク推進課平井です。観光のほうでございます。金田議員さんおっしゃられたとおり、増減の大半はもう数字見て分かっていただけとおりで砂の美術館にはなりません。特に力をということでこちらの担当課として説明をさせていただきますと、当然砂の美術館は砂丘の大きなこれ観光拠点でありますので、それをしっかりと今の14期展示を多くの御来場者をお迎えできる環境を整えてプロモーション情報発信等、指定管理者とやっっていく、それはまず必然的にやっっていく部分だと思います。それから先ほど石田議員さんのほうの問いにもありました白兔も当然今年兎年ですので、それを1つの起爆剤にしていくということで、地元の方と連携して取り組んでいきたい。あと2つちょっと上げさせていただくとすれば、16ページ、17ページの委員会資料あたりにもちょっと説明をさせていただいた中にありましたが、周遊観光促進事業費や、17ページにあります国際観光推進事業費のコロナ交付金の事業辺りはインバウンド需要の再開、あるいはこれからいわゆる需要の回復そういったことを見据えて、これまで少し中断しておりましたバス、それから周遊タクシー、これを外国人観光客に対してもひとつ復活させて、見据えてるのはやはり2025年の万博に向けてそういうお客さんを鳥取に呼び込んでいく土台を来年度の事業辺りには少し強化をして取り組んでいきたいというふうに考えております。最後にもう1点は、先ほど吉野議員さんからもお尋ねがありましたまちなか観光、こちらに関しても昨年の鳥取城跡の社会実験としてありましたライトアップ、それに併せて鳥取市の観光コンベンション協会のほうで町なかのほうでのものにぎわいイベントというようなものも開催しております。こういったものを少し、やはりもう少し多くの方に見ていただける、あるいは楽しんでいただけるメニューを、今、観光協会さんや商工会議所さんをはじめとする地域の団体さんと、今、企画を練って進めたりしておりますので、ぜひ砂丘とある程度やはりこの城跡をひとつお客さんを呼び込んでいく1つの拠点にしていけるような取組をしていきたいというふうに観光としては考えているところです。以上でございます。

◆浅野博文分科会長 はい、金田副委員長。

◆金田靖典副分科会長 ありがとうございます。今日の前半の話の中でもやっぱり、中小企業がとても大変な状況だと、それから鳥取自体がそもそも観光産業が大きな産業の1つで、そんな中でコロナの関係こんなに大変なことになっていますから、その面ではやっぱり地域の経済活性化、それから観光の面でね、主に地元にお金が回るそういうシステムでの取組をぜひともお願いしたいというふうに思っています。

なので、ちょっと1つだけ。事業別概要161ページの下段ですけれども、鳥取砂丘西側整備事

業費というのがあります。うちは以前からこういうあくまでも公的な部門というのはやっぱり公立がやるべきじゃないかということで、この事業に関しては意見を申し上げてきたところですけども、その中に事業の内容で3施設の主な従前利用者、学校・社会教育団体等を対象とするモニター利用の実施というのがあるんですけども、これをちょっと具体的に教えてやってください。

◆浅野博文分科会長 米澤参事。

○米澤裕治観光・ジオパーク推進課参事 観光・ジオパーク推進課米澤がお答えします。モニター利用ということで、今現在ですね、砂丘西側にありますサイクリングターミナルと柳茶屋キャンプ場は昨年の9月から施設のほう廃止・閉鎖をさせていただいてるんですが、また一方で、現在新たなプロポーザルということで公募事業者のほうを募集し、現在審査をするというような段階にきております。この事業者がスケジュールどおりに決定させていただきましたら、来年の8月には施設のほう引き渡すような形になるんですが、優先交渉権者決定から施設を引き渡すまでの間が数か月間空きますので、その間にこれまで柳茶屋キャンプ場ですとか、サイクリングターミナルを活用しておられた小学校の宿泊学習だとか、ボーイスカウト・ガールスカウト、森のようちえんさんだとか、そういった団体にモニター利用という形で使っていて、そうやって意見を吸い上げながら新しいその事業者のほうにそういったものを反映させながらいい事業としてスタートできるように持っていきたい、そういった意味でのモニター利用でございます。以上です。

◆浅野博文分科会長 はい、金田副委員長。

◆金田靖典副分科会長 すみません。合わせて聞けばよかったですけども、この情報発信の強化というところも併せてちょっと教えてください。

◆浅野博文分科会長 はい、米澤参事。

○米澤裕治観光・ジオパーク推進課参事 観光・ジオパーク推進課米澤です。この情報発信というのは、今の鳥取県と鳥取市とか令和3年12月に砂丘の連携協約という協約のほう締結しております。県市が今後連携をして砂丘の活性化の事業のほうしていこうというような、そういったことになっておるんですが、砂丘に関する情報というのは観光コンベンション協会だとかDMOとかいろいろなところが出しているんですが、県市が連携して情報を出していくというような事例がないもので、この連携協約といったこういった仕組みを使いながら県市の連携した情報を1点といいますか、出していくようなそういったサイトを新たに構築したいと考えておりました、そういった関連の事業費でございます。

◆浅野博文分科会長 はい、金田副委員長。

◆金田靖典副分科会長 ありがとうございます。いずれにしても、長年市民から親しまれ、また教育的にもそういう形で活用されてきて、誰もが使いやすい場所だったわけですし、それから柳茶屋キャンプ場もいつかは本当に満杯状態でね、誰もが安心してしかもちゃんとお互いにルールを持ちながらやるというのが、やっぱりそこがよさだったんだろうと思いますんで、一応プロポーザルで業者のほうの手を挙げてるといんですけども、その辺りのよさをしっかり生かして、みんなのやっぱり市民の宝であることを続けるということが大事だと思います

ので、よろしくお願いいたしたいと思います。はい。以上です。

◆浅野博文分科会長 はい、そのほかございますか。よろしいですか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

◆浅野博文分科会長 はい。以上で質疑を終結します。

議案第3号令和5年度鳥取市公設地方卸売市場事業費特別会計予算（質疑）

◆浅野博文分科会長 次に議案第3号令和5年度鳥取市公設地方卸売市場事業費特別会計予算を議題とします。

これより本案に対する質疑を行います。質疑のある方は挙手をお願いします。よろしいですか。はい、じゃあ、加嶋委員。

◆加嶋辰史分科員 加嶋です。事業に関連してなんですけども、まちの声からすると、そのHACCPというものなかなか浸透していないんじゃないかというところを御意見いただいてまして、それで、事業は事業で整備していくんですけども、入られる方といいますか、その業者さんに対するHACCP制度の周知というのは鳥取市は関わっていくのかどうかお尋ねします。

◆浅野博文分科会長 はい、渡邊次長。

○渡邊大輔次長兼経済・雇用戦略課長 経済・雇用戦略課渡邊でございます。HACCP制度につきましてはやはり食品の衛生の部分ということで、やっぱり施設の中での管理でありますとか、施設の状況でありますとか、そういったものが重要になってくると思います。鳥取市場に関しましてはこのHACCPにしっかりと対応できるような新しい市場にするということで組合の皆様ともHACCPに対応できるもの、それから併せてコールドチェーンでありますとか、物流はしっかりとできるもの、そういった新しい市場にするんだということを皆さんの意志統一、御理解の基で事業を実施をさせていただいておることになりますので、この市場の中でこのHACCPに対応できるというようなことは、市場の組合の皆さんもそういったことを御理解をいただきながら事業は推進していけるものというふうに考えております。以上でございます。

◆浅野博文分科会長 はい、加嶋委員。

◆加嶋辰史分科員 加嶋です。少し意見になりますけれども、インボイス制度であったり、こういった新しい制度がなかなか対応できない方も当然おられるわけで、ただ、それは手を差し伸べればついてはいけるのかなというところでもあります。せつかく市場が出来て、今度は納品するときに干物の作り方がHACCPに適用してなくて並べられないだとか、そういった悲しいことが起きないように周知徹底を伴走していただきたいと思います。以上です。

◆浅野博文分科会長 はい、そのほかございますか。よろしいですか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

◆浅野博文分科会長 以上で質疑を終結します。

議案第10号令和5年度鳥取市温泉事業費特別会計予算（質疑）

◆浅野博文分科会長 次に議案第10号令和5年度鳥取市温泉事業費特別会計予算を議題とします。

これより本案に対する質疑を行います。質疑のある方は挙手をお願いします。はい、加嶋委員。

○加嶋辰文委員 加嶋です。ちょっと関連の幅が外になってしまうかもしれないけど、他県で温泉旅館が清掃がされてなくてということが全国的なニュースになってきて、当然これ何うお声では旅館としてのイメージがダウンしてしまったと。当然保健所が所管でチェックしていかないとはいけないですけども、これから観光需要が増されるという中で入湯税というような収入も増やしていきたいというところがあるとは思いますが、こういったものがきちんとされていますと、鳥取市においてはきちんと検査をされていますというようなことを、今度こちら側から訴えかけていくというようなものは、もう保健所所管で、特会のほうの話ではないと、関連しないかどうかという、そこを教えてもらっていいでしょうか。

◆浅野博文分科会長 はい、平井課長。

○平井宏和観光・ジオパーク推進課長 観光・ジオパーク推進課平井です。恐らく今、議員さんがおっしゃったように、衛生上のそういう監督指導というのはこの特別会計の事業とはちょっと異なるもので、この特別会計の事業というのはあくまで鹿野温泉とこれ浜村温泉にまず対象が限定されますし、温泉旅館のみならず、個別の各家に、配湯を希望される皆さんが家に温泉を引かれたり、あるいは福祉施設や農業施設に引かれたりというような、そういう温泉の供給に必要な設備の修繕とか、おっしゃられた温泉を、逆に言うと、家や施設や旅館に届けるためのポンプや管路やそういったものの修繕等をこの特別会計で皆さんから頂いている貴重な温泉使用料というようなもので賄ってやっているという事業になりますので、我々とする維持管理費や基金等を活用しながら、先ほど言った、いい温泉をちゃんと届けれるためのインフラを整えつつというような事業として、そこは温泉事業としての貢献を果たしていきたいというような考え方でおります。以上です。

◆浅野博文分科会長 はい、よろしいですか。はい。そのほかございますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

◆浅野博文分科会長 はい、以上で質疑を終結します。

議案第11号令和5年度鳥取市観光施設運営事業費特別会計予算（質疑）

◆浅野博文分科会長 次に議案第11号令和5年度鳥取市観光施設運営事業費特別会計予算を議題とします。

これより本案に対する質疑を行います。質疑のある方は挙手をお願いします。よろしいですか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

◆浅野博文分科会長 はい。以上で質疑を終結します。執行部の皆様は御退出ください。

しばらく休憩します。

午前11時31分 休憩

午前11時32分 再開

分科会長報告の取りまとめ

◆浅野博文分科会長 はい、それでは再開します。

これから分科会長報告の取りまとめを行いたいと思います。まず、経済観光部所管の部分で皆様から出された質疑、意見について事務局より報告をお願いします。はい、橋本さん。

○橋本圭司議事係主任 それでは事務局から皆様の質疑の内容を簡単にですが、御報告させていただきます。

まず、第1号一般会計予算につきましては、加嶋議員さんからスマート・エネルギー・タウン構想推進事業費について、前回延期になった理由ですとか、こういった企業が検討されるのかという点について、執行部からは新たな小水力発電の事業の検討を行うというような答弁がありました。この点につきましては吉野委員からも質疑がありまして、同じ事業内のEV物流モデルの検討についての質疑もあったところでございます。また、これは金田副委員長からもバッテリーについての質疑がありました。

次に雇用促進協議会事業費について岡田委員から実績についての質疑がありまして、続いて米村委員から大型空き店舗対策事業費についての実績、また、トスク閉店に対する質疑がございました。また続けて米村委員から中小企業金融対策費について、この原資等に関して返済に関する質疑がございました。その続きの関係で倒産・廃業に対する質疑ですとか、中小企業に対する対策などの質疑がありまして、これにつきましては加嶋委員からも実態調査に関する部分ですとか、支援の要望等があったところでございます。

続けて米村委員から保証協会とのつながりですとか、また、続けて企業誘致推進費の増額理由について、工業団地の関係でございます。続けて、工業団地につきましては石田委員からも地盤沈下についての質疑がございました。これについては浅野委員長からも質疑があったところでございます。

次に吉野委員からまちなか観光推進事業費について、地元大学の参画についての質疑がございました。

次に中山委員からSDGs未来都市推進事業費について予算増の理由や中身の経費等の質疑がございまして、続けて3年計画に関するところの質疑がございました。

続いて石田委員から物産振興事業費やインターネットショップ事業費に関する質疑がございまして、増額理由ですとか、別事業売上げについての質疑がありました。

また、同じく石田委員より商農工連携マッチング事業費の内容や恋人の聖地白兔の事業費の予算増理由などに関する質疑がございました。

続きまして、金田副委員長より地域経済活性化促進事業の増額、また、観光費の力を入れているポイントなどの質疑がございました。

続けて西側整備の事業費につきましては、従前利用者のモニター利用に関する部分ですとか、情報発信強化に関する質疑が金田副委員長よりあったところでございます。1号については以

上でございます。

3号につきましては、加嶋委員よりHACCPに関する質疑がございました。

10号に関しては加嶋委員より清掃というか、衛生管理の点の質疑がございました。

11号に関しては質疑ございませんでした。以上でございます。

◆浅野博文分科会長 はい。ありがとうございます。

それでは分科会長報告に盛り込むべき事項として御意見がございましたら御発言をお願いします。皆さんから一言いただきましょうか。そしたら加嶋委員から。

◆加嶋辰史分科員 加嶋です。全ての委員の方から万遍なく御意見が出てたと思います。今までの予算のつけ方だとか、前回の決算のときの報告に関するようなところでなってくると、この企業に関する支援の中から選んではどうかなというふうに思っているところで、今のところ、すみません、ぜひともこれをというのではなくて、すごく拮抗してしまっていて、もう少し考える時間をといますかと思っておるところです。

◆浅野博文分科会長 はい、それでは米村委員。

◆米村京子分科員 スマート、あれに関してすごく皆さん中心に頑張っていってらっしゃいましたので、あれはすごく取り上げるべきだとは思っておりますけども、あとに関しても大体予算的に倍になってる予算というのがあったりしますよね。それで、皆さんが何の目的でどうしてっていう、そういうところからのあれのほうがいいんじゃないかなと思っております。もう全体的に皆さんが網羅して言っていってらっしゃいますので、質疑されていきますので、それはそれでもういいと思います。

◆浅野博文分科会長 はい、では石田委員。

◆石田憲太郎分科員 ちょっと確認をしたいんですけども、米村委員が質問されとったその中小企業の関係のところですけども、簡単にちょっとポイントをまとめて、聞かれた内容をちょっと聞かせてもらえませんか。何か、まとめてこういう質問したというのがちょっと聞かしてもらえんかな。

◆浅野博文分科会長 橋本さん分かりますか。ちょっとしばらくお待ちください。はい、橋本さん。

○橋本圭司議事係主任 米村委員の中小企業の支援に関する部分の質疑でございますけども、まず、中小企業金融対策費の関係、融資の返済の部分についての質疑がありまして、大野部長がコロナ融資は非常に大きな枠で行われて融資の返済はほぼ始まっている。保証協会による代弁済は数十件と率は高くないまでも、ある程度出てきているが、想定内にあると。金融機関の対応も取り組まれていて、倒産件数はまだ増えていなくて、それを物価高騰ですとか、燃料高騰等の影響がかなり大きいので、そっちも注視しているという答弁がありました。続けて米村委員より倒産・廃業の増加がこれから見込まれるけども、それに対する考え方を聞かれたときに、また、大野部長から、これまで過去にない規模で取り組んできた、全力を挙げて取り組んできたところで、全国的な傾向見るとこれから増えてくるのは明らかではあるけども、コロナ過の支援によって生き延びてきた部分というのがあって、そこが倒産が出てくるというのが考えられるということで、資金的には十分に手当てを行っているというふうな答弁がありました。

それで、加嶋委員さんがその後に実態調査をやっているのかというような関連質疑を行われまして、大野部長からは統計調査はタイムラグがどうしてもあるので、直接聞き取りなどをしながら実態把握をして温度感を確かめていきたいというようなことで、これに対して加嶋委員さんが寄り添った伴走型支援をお願いしますというようなことを言われました。

その次に米村委員さんから保証協会とうまくいかないときにどうしたらいいのか、大変なことになるってというようなことの質疑がありまして、また、大野部長からは、これまでは保証協会は通常保証がつけられないところもつけてきた部分があったので、その副作用が出るのではないかなというようなことの御答弁がありました。中小企業に関する部分は以上です。

◆浅野博文分科会長 はい、ありがとうございます。石田委員どうでしょうか。

◆石田憲太郎分科員 ありがとうございます。以上です。何とかそのあたり大事なことで、これからも返済云々始まっていくところの中で、ちょっとそのあたりも大事だから、そういう意見が出ていたらそういうまとめでもできるかなと思って、今、確認をしたところなんですけども。

◆浅野博文分科会長 はい、分かりました。じゃあ、金田副委員長。

◆金田靖典副分科会長 地域経済をどうやって、もうぎりぎりのところで、それこそ倒産直前まで崩壊寸前にきているところでどうやって地域経済を支えられるのかっていうのが多分大きな5年度の当面のあれなのかなということと、それからあれはなかなか新たなと思ったのは、佐治川の小水力の分が地産地消のために向こうと合わなかったんだと。ですので、全量売ってしまえば中国電力に行くだけの話ですから、あれをタウン構想の中でそういう形で、地産地消っていう形でエネルギーを循環したいというのが考え方としてあるっていうのでああいう形になったというのは、エネルギーに対する考え方とすれば非常にそこは評価されるころだなんて思って聞きましたね。それから観光どうやって盛り返すのかっていうのが、地域経済どう活性化するというのが一番大きなテーマじゃないですかね、5年度の予算の、と思いました。以上です。

◆浅野博文分科会長 はい、ありがとうございます。じゃあ、岡田委員お願いします。

◆岡田信俊分科員 私も金田委員と同じって言いましょうか、中小企業ほんとにこれからどう活性化し、コロナが終息するであろうとして立て直していくかということと、やっぱりスマート・エネルギー・タウン構想も結構大事なことだというふうに思いまして、その2つを悩んでおりますというか、考えております。

◆浅野博文分科会長 はい、ありがとうございます。吉野委員。

◆吉野恭介分科員 吉野です。観光事業を軸にした地域活性化とか、地域経済を回していくんだみたいなところの話がいいのか、エネルギーがいいのかっていうような感じなんですけど、観光業のところではインターネット事業のことで、ふるさと納税のことを取り込んでという話があったし、町なかでは地元の大学っていうような話も言わせてもらったし、砂丘の西側物産振興みたいところで、何かうまく地域で回していく地元の企業なり教育機関なりを利用していくっていうようなところのくくりでどれか持ってきてもいいのかなというような感じで思いました。以上です。

- ◆浅野博文分科会長 はい、ありがとうございます。では、中山委員。
- ◆中山明保委員 中山です。初めてのこういう委員会だったので、予算のですね、こういう取りまとめという仕方が、私がちょっと分からないので皆さんの御意見聞いて、先ほども言わせてもらったんで、あとはこの原案のとおり予算執行をきちっとやっていただいて、繰越しとかそういうことがないように見守っていきたいというふうに思います。以上です。
- ◆浅野博文分科会長 はい、ありがとうございます。皆さんから御意見をいただきました。大きくスマート・エネルギー……はい、その前に石田委員。
- ◆石田憲太郎分科員 何かはつきりまとめて言ってなかったんで、ちょっと皆さんの意見を一通り聞かせていただきまして、ちょっとやっぱり新しい部分でということ、新しい部分での事業を盛り込んだほうがいいのかというふうに思ったりしまして、やっぱりスマート・エネルギー・タウン構想、これでまとめられるのいいのかと思ったりいたしました。新たな事業でもあったりいたしますし、そういうところでこれから期待する事業でもありますね、その辺りをしっかりと進めていただくという意味合いでの、これでまとめられたらどうでしょうかと思いました。以上です。
- ◆浅野博文分科会長 はい、ありがとうございます。今、石田委員がまとめてくださいましたけども、皆さんどうですか。はい、加嶋委員。
- ◆加嶋辰史分科員 加嶋です。賛成というか、同感であってですね、その中小企業対策費は費目であって事業名でないの、この事業取ってというのがちょっと分科会報告でにくいのか。そうなってくると、事業名としてはつきり上がっていて議論が集中したスマート・エネルギー・タウン構想について意見を述べられた議員さんもおられましたので、整文というんですか、そのお言葉を使わせてもらって、皆さんでまとめていけたらなと思います。以上です。
- ◆浅野博文分科会長 はい、ありがとうございます。そのほかございますか。じゃあ、そうしましたら、このスマート・エネルギー・タウン構想事業費に関連して、質疑の発言を基にして、また案を作らせていただいて、また、いつ頃なりそうですかね、事務局のほうに任せてもよろしいですかね。当然私たちも入りますけども、はい、橋本さん。
- 橋本圭司議事係主任 一応今、正副委員長のほうに御相談しているのは、内容を金曜日までには正副委員長と一緒にまとめまして、それで金曜日中には皆様にある程度の文案がお示しできるようなスケジュールで今考えておりますので、はい。取りあえず委員長、まとめとしてスマート・エネルギー・タウン構想に関する質疑の部分の、もう一回私の記録を申し上げさせてもらってもよろしいでしょうか。
- ◆浅野博文分科会長 はい。
- 橋本圭司議事係主任 そうしますと、もう一度繰り返しになりますけども、スマート・エネルギー・タウン構想推進事業費に関する部分の質疑ですけども、まず、加嶋委員より前回の事業は延期になっていると。それで同じような企業なのか、もしくはどういった企業が入ってくるのかというような部分の質疑がありまして、渡邊次長より、前回の事業とは全く今回は別で、前回はプロポーザルの企業と市の考え方にいろいろ相違があって、また費用もかかってくるので辞退されたということで、令和5年度は可能性調査ということで、前回の木合谷川とはまた

別の新たな調査を行うもので、対象となるのは電力にしっかりとした知見のある事業者を公募するというような内容でございまして、加嶋委員からそれは県内事業者かというような質疑がございまして、渡邊次長からは、しっかりとした知見がありつつ、コンサル業務ができるようなところになると県内では難しいだろうと。ただ、実施に当たっては地元企業の活用を行って地産地消の取組をしっかりと考えていきたいというようなことで。続いて吉野委員から、過去の事業者は方向性が合わずに断念ということで、費用対効果の考え方はどうかというようなことを尋ねられまして、渡邊次長からは、前は場所も工事が難しい位置にあって、また全量売電ということでも費用対効果が難しく、また、全量売電ということもあって市の補助もなかなか難しいというようなことがあったという答弁があって、今回は脱炭素先行地域に選定されれば国からの交付金が活用できるので、そういった面でも支援はできるのかということで将来にわたる地産地消というのが前提になってくるであろうというような答弁がございました。

それで、同一事業の中でのEV物流モデルについて吉野委員からの質疑で、不在者対応などの仕組みが対応できないのかというような部分で、渡邊次長からは、今回はまずは地域でエネルギーを活用して、かつ物流問題の解決というのをモデルをつくるような、システムをつくるような調査が行われるものであると。受け取りに関しては全国的に課題なので、可能ならば検討するというので、まずは電力をどうやって地元に戻元させていくのかを検討するというような答弁がありまして、金田副委員長からはバッテリーの汎用性についての質疑がありまして、これは渡邊次長からかなり県外の事例もあって汎用性のある段階まで来ているということで、そこも含めて調査も行うというような答弁があったようでございます。一応このような内容をまとめていくような流れにはなるのかなと思っておりますので、2つの事業がありますけども、両方とも記載するような形でよろしいでしょうか。

◆浅野博文分科会長 はい、よろしいですか。はい。じゃあ、2つの事業をまとめて検討をお願いしたいと思います、一緒にね。はい、検討していきたいと思います。じゃあ、後日また皆さんのほうには案をお示しして、また検討お願いしたいと思いますのでよろしく願いいたします。ではそのように進めてまいります。

それでは、文教経済分科会はいったん休憩します。再開は午後1時からとしますのでよろしく願いいたします。

文教経済委員会に切換え 午後11時54分 休憩

予算審査特別委員会文教経済分科会に切換え 午後1時31分 再開

◆浅野博文分科会長 予算審査特別委員会文教経済分科会を再開します。

【農林水産部・農業委員会】

議案第1号令和5年度鳥取市一般会計予算のうち所管に属する部分（質疑）

◆浅野博文分科会長 議案第1号令和5年度鳥取市一般会計予算のうち、所管に属する部分を議題とします。

これより本案に対する質疑を行います。質疑のある方は挙手をお願いします。加嶋委員。

◆加嶋辰史分科員 加嶋です。そうしましたら事業別概要書 167 ページ上段、農政企画課所管の農産物販路拡大支援事業費についてですけれども、今回新規事業ですが、コロナ克服・新時代開拓臨時交付金が充てられているということで、今までとの違いのところと、この令和6年以降ですけれども、こういった財源がなくなったときにどういった財源で、一般財源のみで行かざるを得ないのか、その辺を、今後というところでお聞きします。

◆浅野博文分科会長 はい、山川課長。

○山川泰成農政企画課長 農政企画課山川です。農産物販路拡大支援事業、コロナの交付金が充たっているということでございます。新規事業に丸がついてございますが、実はこの事業自体は従来から継続してやっております、コロナの交付金を新規で充てたということで新規事業の扱いになっているということで御理解をいただきたいというふうに思います。こちらにつきましては従来から一般財源であったり、また、地方創生交付金も充てたりして、もう5年以上継続してさせていただいております。非常に総括質疑でも少し御質問いただきましたが、直接、コロナで生産者が出向いてマルシェに行くというのはなかなか難しかったわけですが、実績としては着実な成果が上がっているというふうに認識しております。財源がなくても可能な限りこの事業継続していきたいと考えているところでございます。以上でございます。

◆浅野博文分科会長 はい、よろしいですかね。はい、そのほか、はい、吉野委員。

◆吉野恭介分科員 関連です。実績は確実に上がっているって今、おっしゃられたんですけど、事業の実績を見ると、もう毎年下がっている、これはひょっとしたらマルシェだけなんかも分からんですけど、これの意味とは違っての実績は上がっているっていう意味なのか教えてください。

◆浅野博文分科会長 はい、山川課長。

○山川泰成農政企画課長 農政企画課山川です。事業別概要に記載しております事業の実績というのは、全体の事業費の委託事業の予算のことだということを御理解いただきたいと思います。本来この事業をすることというよりは、いかに販路を拡大していくかということで、いろんな生産者が作られたものが、もう取引がいかに増えていくかということでございまして、大きくは地域商社に委託する事業がほとんどなんですけれども、そういった中で地域商社を経由している取引が増加しているという状況がございまして、実績は少しずつではありますが、着実に上がっていると認識しております。以上です。

◆浅野博文分科会長 はい、吉野委員。

◆吉野恭介分科員 ありがとうございます。予算の規模は下がってきたけども、中身は上がっているよっていう理解をさせていただきました。マルシェだけになるんかも分からんですけども、関西圏から関東圏に、首都圏に広げるよっていう話を総括質疑でも聞かせてもらったんですけど、今回の関西でのその反省点っていうものを踏まえて首都圏に打って出るっていうことでしょうか。

◆浅野博文分科会長 はい、山川課長。

○山川泰成農政企画課長 農政企画課山川です。反省点というわけではないんですけども、より

全国的に広く、広くPRをしていきたいというような思いもあって、長年、麒麟のまちという拠点があるものですから関西圏を中心というやり方をやってきましたが、これからアフターコロナということもあって、首都圏への目を向けるべき時期かなということで、来年度からは首都圏へということで、大阪が駄目だったから東京に行くというようなわけではございませんが、少しホップステップじゃないですけど、そういった意味合いで首都圏にも向かっていきたいなと思っているというところでございます。

◆浅野博文分科会長 はい、吉野委員。

◆吉野恭介分科員 ありがとうございます。昨年の実績はマルシェの効果は134件で150万の売上げだったということですので、倍増、3倍増、もう飛躍を期待しておりますのでよろしくをお願いします。以上です。

◆浅野博文分科会長 はい、そのほかございますか。はい、米村委員。

◆米村京子分科員 すみません。1点だけですけど、実は、概要書の166ページの上段、みんなでやらいや農業支援事業費と、隣のほうの167ページの下段のスマート農業実装加速化促進事業費っていうのがあるんですけども、この中に2つとも出てきているのが令和5年度実施予定っていう形で、あくまでも予算ですから当たり前のことなんでいいんですけども、それともう1つ、やっぱりスマート農業のほうにも令和5年度実施予定ってところが上がっていると思うんですけども、その中でこれは農機具を中心の補助金なんですか。ここで、みんなでやらいやのときなんかにもトラクターがありますし、このもう1つのスマート農業実装のほうにもトラクターとか、ドローンとか上がっているんですけど、この辺の何か仕分けっていうか、何でこういう形になっているのかということをおちょっと説明していただけますでしょうか。

◆浅野博文分科会長 はい、山川課長。

○山川泰成農政企画課長 農政企画課山川です。米村議員おっしゃられるように基本的にはハード整備が中心に従来支援をさせていただいております。それで、事業別概要166ページの、みんなでやらいやのほうにつきましては、通常の農機具、コンバイン、トラクターとかですね、いろんな乾燥機なんか書いてございますが、実施予定として、もちろんさせていただいておりますけども、この事業に支援をする予定だということです。それで、167ページのスマート農業の加速化実装事業というのは、ここ3年ぐらい、両事業とも県市で協調して行うものでございますが、スマート農業につきましてもここ最近制度化されたものでございまして、トラクターとか、田植え機とか同じようなもんが上がるとなるとは思いますが、167ページのほうは、例えばGPSがついて直進性能が上がったようなトラクターであったり、直進のアシストつきの田植え機があったり、もちろんドローンというような、そういったいわゆるスマート農業機器ですね、ICTを活用したスマート農業機器に係る資機材はこのスマート農業実装加速化促進事業費のほうで見ているということで、通常の汎用トラクターとまたICTを使つてのトラクターということで仕分けをさせていただいているというふうな御理解いただければと思います。以上です。

◆浅野博文分科会長 はい、米村委員。

◆米村京子分科員 その前の窓口はどこになるのかだけ教えてください。

◆浅野博文分科会長 はい、山川課長。

○山川泰成農政企画課長 農政企画課山川です。市役所の窓口は私どものほうで、違いました、窓口っていうのは。

◆浅野博文分科会長 はい、米村委員。

◆米村京子分科員 結構やっぱり農家さんたちが一生懸命、自分たちの欲しいと思うものを補助のお願いするわけですから、受付はね、それこそ農政課かもしれませんけども、その一般でどういう形での申込みになるのかっていうことをお願いしようかな、じゃあ。

◆浅野博文分科会長 はい、山川課長。

○山川泰成農政企画課長 農政企画課山川です。いずれの事業につきましても、基本的には認定農業者さんってあって、しっかりと年間所得が350万以上とか、農業経営をしっかりとやられている方の経営支援というのを考えての事業でございます。どなたでもこの事業が使えるというわけではもちろんないんですけども、まずはそういった方から市なり県なりにこういった経営の改善のためにこういった資機材が欲しいんだというような、まず相談をいただきますので、そこからどういったものが必要になるのかとか、どのタイミングでやるのがその経営的にどうかとかいうの、いろんな計画を県、市、生産者、中にはJAさんも入るときもありますが、そういったとこで一緒になって計画を組み立てて、今回その上でこういった予算化をさせていただいているという、そういった流れになります。以上です。

◆浅野博文分科会長 はい、米村委員。

◆米村京子分科員 じゃあ、もう最後になりますけども、令和4年度が2,423万円見込みになり、それで、本年度の予算額が2,074万9,000円になって、この辺はどういうふうに理解したらいいかちょっと教えていただけますでしょうか。概要書の166ページの上段。

◆浅野博文分科会長 はい、山川課長。

○山川泰成農政企画課長 農政企画課山川です。前年度予算額と当年度予算額で差があることについてということでもよろしかったですかね。

◆浅野博文分科会長 はい、米村委員。

◆米村京子分科員 実績のほうの中に、令和4年度2,423万円の見込みで上がっているんですけども、それなのに今回の本年度の予算額としては2,074万9,000円になったというのはどういう経緯なのかなと思ひまして。

◆浅野博文分科会長 はい、山川課長。

○山川泰成農政企画課長 農政企画課山川です。令和4年度につきましては今年度事業ということですので、まだ決算が全て終わっていませんが、今年度に対する事業の見込みでございますし、2,074万9,000円お願いしておりますのは新年度事業ということで予算を上げさせていただいているものでございます。それぞれ対象の農家さんも機械も違いますので、令和4年と令和5年が同じものというわけではなくて、令和4年で終わるものもありますし、令和の5年から新規でまた支援をさせていただくというものがあるということで御理解いただきたいと思います。

◆浅野博文分科会長 はい、よろしいですか。そのほかございますか。はい、加嶋委員。

◆加嶋辰史分科員 加嶋です。すみません。ちょっと聞き漏らしたんですけど、農政企画課からは今回歳入で過疎対策債 300 万円上がっていて、もう一度すみません。どちらにそれが充てられているのかということと、その前々年度も過疎対策債を財源とされての事業だったか、その点教えてください。

◆浅野博文分科会長 はい、山川課長。

○山川泰成農政企画課長 農政企画課山川です。過疎債については従来だったら佐治、用瀬で今、河原もですかね、エリアになっております。ちょっとどの部分の事業に充当してるかっていうのは調べますんで、お時間いただきたいと思います。

◆浅野博文分科会長 はい、そのほかございますか。はい、吉野委員。

◆吉野恭介分科員 概要書で 170 ページ上段の鳥取地どりブランドです。総括質疑のときにちょっと部長答弁で気になったんですけど、本事業は継続していくことは想定していないっていうふうな発言をされと思うんですけども、その真意はどこら辺にあるのか、聞き間違いだったらごめんなさい。

◆浅野博文分科会長 はい、山川課長。

○山川泰成農政企画課長 農政企画課山川です。総括質疑の星見議員からの質問で、今後も引き続き支援をされるんですかというお尋ねに対しまして、部長のほうで答弁をさしていただきました。本事業を将来にわたり継続することを想定しておりませんがという言い方をさせていただきましたが、県市で支援をしているとはいえ、株式会社鹿野地鶏という、あくまで民間の事業という意味合いもございます。ずっと未来永劫、経営支援をやっていくということは考えにくいだろうなということで、現在こういった環境もございまして、少し施設等についても手を入れなければいけないタイミングということで、まだ支援をしておりますが、そういった民間事業だというような位置づけに立って、ずっとこのまま将来的に支援を継続するというのではないと考えているというようなことで、そういった答弁でございます。以上です。

◆浅野博文分科会長 はい、吉野委員。

◆吉野恭介分科員 ありがとうございます。一般財源を投入しているということから言っても、主体性を持って意志を入れて取り組んでいただきたいな、多分そうされているんだとは思いますが、よろしく願います。あと、県と一緒にされとる事業だというふうに聞いておりますので、県がやる部分、市がやる部分の役割分担みたいところを教えてください。

◆浅野博文分科会長 はい、山川課長。

○山川泰成農政企画課長 農政企画課山川です。この事業につきましては施設整備にかかる経費については県と市で両方で支援をしております。我々のところのほかの県市の連携事業は県からお金が入ってきて、県のお金と一緒に市のほうが生産者にお出しするみたいな、だから、県が3分の1くれたのを市が6分の1をつけて2分の1にして、生産者に出すという事業が多いんですけども、この地鶏の事業につきましては、県のほうが株式会社に直接補助をしております。ですから、こちらのほうでは県のほうの歳入は上がってきてないんですけども、県は基本的には施設整備にかかるもののみ支援をしております。我々は施設整備プラスそういった販路拡大の関係とか、人材の育成の関係とかソフトの部分ですね。そういったものも支援してい

るという仕分けになっています。以上です。

◆浅野博文分科会長 はい、石田委員。

◆石田憲太郎分科員 すみません。ちょっと関連してですけども、このピヨに関してはひな鳥を県から入れてるんでしたよね。多分一万数千羽だったと思うんですけど、この枠というのは今後増えることは難しいんでしょうか。県のほうから供給いただくそのひな鳥の数というのは、これ、やっぱり増えない限り市場規模も広がりませんし、この事業そのものが拡大していかないと思うんですけども、そここのところの見通しというのはどうなんですかね、今後の部分。

◆浅野博文分科会長 はい、山川課長。

○山川泰成農政企画課長 農政企画課山川です。石田議員おっしゃられるように、ひなの供給がいわゆるこの経営規模の拡大といいますか、増羽のポイントになるわけですけども、県のほうの今の供給体制っていいですか、施設の状況からして、やっぱり一万二千から三千が今、限界のどこだというふうに聞いております。県のほうも今後のピヨの増羽については、当然ひなの供給を増やさないといけないという認識は持っていらっしゃって、数年前にはいわゆる県のほうのハードの改修といいますか、そういう供給体制の拡大みたいなのを、少し検討されたようですけども、少しコロナの関係とかもあって、少しペンディングになっている状況です。今後順調にこういった地鶏のブランドが、販路が広がるようになってどんどんニーズが高まるようになれば、恐らく県としても増羽についての検討をされるというふうに思っていますので、そのタイミングで市としても何らかのまた手伝いをさせていただけたらなと思っているところでございます。以上です。

◆浅野博文分科会長 はい、石田委員。

◆石田憲太郎分科員 多分評価としては大変このピヨをですね、肉質なりなんなりとかいう部分で評価は非常に高い地鶏だと思っていますんでね、県のほうになるではありませんけれども、やはりその辺りの供給体制といいますかね、増羽の部分についても何とか県のほうにでもその辺りのことは働きかけていいですかね、していただけたら、それできちんとした増産体制で、しっかりとしたものとして確立をしていただきたいなというふうに思います。これも意見ですけども、あと、1点いいですかね。

◆浅野博文分科会長 はい、どうぞ。

◆石田憲太郎分科員 189 ページの下段のため池ハザードマップ作成事業費なんですけども、従来からの継続事業なので、既にもう従来から説明があったことかも分りませんが、ちょっと私が承知をしておりませんので聞かせてもらいますが、事業内容が2つのため池でハザードマップを作成をするということで、それぞれ70万円ということになっておりますけども、これっていうのはどっか業者に委託して、そういうマップの作成をされるようなことなのか、70万円の詳細をお伺いをさせていただきたいのと、これ2か所、今回予定なんですけども、そもそもこのハザードマップの作成が必要とされるため池の数ってどれぐらいあるんでしょうか。ちょっとそのあたりを聞かせてください。

◆浅野博文分科会長 はい、坂本次長。

○坂本武夫次長兼農村整備課長 農村整備課坂本です。ため池ハザードマップ作成事業費という

ことで、ため池2か所で140万、各70万ずつということになっております。このため池ハザードマップですけれども、地元と市なり県なり、あと、それから土地改良連合会と一緒にあって現地を確認したりであるとか、あと、ため池が決壊したときの洪水解析などをして、こういったタイミングで、こういったルートを通って避難するのがいいかというような、避難に役立つようなマップを作る作業です。この事業は先ほど言いました鳥取県土地改良連合会のほうに委託をしております、先ほど申しました解析、それから地元の説明などというようなことをやっております。

それからため池の数についてですけれども、このため池ハザードマップは防災重点農業用ため池について作成をしております。鳥取市内に現在65か所の防災重点農業用ため池がございます、これまでにハザードマップを作成いたしましたのが59か所ございます。残りについて今年度、来年度辺りで作成を完了したいというふうに思っております。以上です。

◆浅野博文分科会長 はい、石田委員よろしいですか。はい。そのほかございますか。はい、吉野委員。

◆吉野恭介分科員 同じため池つながりなんですけど、190ページの下段のシステム管理費、予算額が18万と少額なんですけども、3か所ということでシステムの維持経費ということなんですけど、全体の数は今ほど報告にあった65か所ということで、そのうちの3か所ですよって理解でよろしいですか。

◆浅野博文分科会長 はい、坂本次長。

○坂本武夫次長兼農村整備課長 農村整備課坂本です。このため池監視システムは、対象はやはり同じく防災重点農業ため池を対象にしております、65か所になります。ただ、ため池管理システムを設置しますと一部地元負担ということもあったりしますので、地元の意向を確認しながら設置をしてもいいよというため池ということで、随時県の事業を使いましてため池管理システムのほうを設置しております。昨年度3か所設置しましたので、その管理費ということで令和5年度から3か所のため池を計上しております。以上です。

◆浅野博文分科会長 はい、吉野委員。

◆吉野恭介分科員 ありがとうございます。これの事業の経過・背景のところに豪雨時の浸水リスクが高く決壊した際の被害も甚大なため、早急な避難が求められるって甚大な被害が想定されるところで、アンケートを多分取られるんですよ。それで、希望のあったため池3か所をやっていくんだみたいなことでお聞きしたんですけど、そういったやり方で大丈夫でしょうか。アンケートを地域のほうから取って、地域がやってほしいと希望のあったところをやっていくという考え方で、その被害があったときには甚大だよということに対しての考え方はそれでいいのかという辺りの考え方を教えてください。

◆浅野博文分科会長 はい、坂本次長。

○坂本武夫次長兼農村整備課長 農村整備課坂本です。これにつきまして、防災重点農業ため池ということで、65か所のため池については地元の方も、この豪雨時の浸水リスクが高く、決壊した際の被害が甚大ということは把握されております。それで、先ほどのため池のハザードマップなんですけども、ほぼほぼ、50か所以上設置しております、そういったところでまず地

元への周知であるとか、危険性というのはお話をしております、さらにその上でこういったシステムをつけてみたいというところを要望を取ってつけさせてもらったというところですか。以上です。

◆浅野博文分科会長 はい、吉野委員。

◆吉野恭介分科員 ありがとうございます。この190の下の事業費と上の事業費、そしてその前のハザードマップの事業費なんかのところとは関連性があるのかどうか教えてください。

◆浅野博文分科会長 はい、坂本次長。

○坂本武夫次長兼農村整備課長 農村整備課坂本です。全てこれらの事業は防災重点農業ため池に関する事業になっております。それで、こちらのほう、令和2年度に国のほうが防災重点ため池の緊急整備事業ということで新たに作りまして、その事業費とか事業のスキームの中でやっている事業でございます。以上です。

◆浅野博文分科会長 はい、吉野委員。

◆吉野恭介分科員 ありがとうございます。広報の関係の話も多分あったような気がするんですけど、水位センサーから検知したものをカメラで見て、携帯電話の回線を使ってウェブのシステムに送信するみたいな話もお聞きしたんですけども、一般の我々も閲覧できる状態なのかという辺りを、すみません、確認させてください。

◆浅野博文分科会長 はい、坂本次長。

○坂本武夫次長兼農村整備課長 農村整備課坂本です。総括質疑のほうでもございました、議員さん今御紹介いただいたようなシステムでやっておりまして、県の雪道ナビのようなもの御存じでしょうかね、あれと全く一緒に、どんな方でも、一般の方でも見るだけなら見れます。以上です。

◆浅野博文分科会長 はい、よろしいですか、そのほかございますか。はい、米村委員。

◆米村京子分科員 すみません。概要書の187ページの下段の多面的機能支払交付金なんですけども、この多面的機能の発揮に支障が生じつつあるというので、経過及び背景に上がっているんですけど、多面的機能の発揮に支障が生じつつあるってどういうことなのか教えていただけますか。

◆浅野博文分科会長 はい、坂本次長。

○坂本武夫次長兼農村整備課長 農村整備課坂本です。元来、水田、農地ですね、農地が持っております多面的機能というのがございまして、例えばほったらかしたら草ぼうぼうになったりとか、荒れ果てたりするところを農業を営むことによりまして、用水の管理であるとか、それから周辺道路の草刈であるとか、農道の草刈であるとか、そういった作業をされております。こういった農業以外にも効果をもたらす機能、これを多面的機能と言ってございまして、農業を行うことで、そういった機能が確保されるという意味の多面的機能の確保というふうに言っております。

◆浅野博文分科会長 はい、米村委員。

◆米村京子分科員 すみません、その多面的機能というのが、ちょっと理解ができなかったものでお伺いしました。どうもありがとうございました。

◆浅野博文分科会長 はい、そのほかございますか。はい、石田委員。

◆石田憲太郎分科員 すみません。ちょっと1点だけ、249ページの上段で、農業委員会さんですけども、事業実績の利用移行調査の実績のところでですけども、この令和2年、3年、4年って、このすごい数字の振れ幅というのはどういうことで、例えば令和3年が非常に多くて2年は少なくてとかいうような、この数字の大きな幅の違いは、すみません、聞かせてください。

◆浅野博文分科会長 谷口事務局長。

○谷口博信農業委員会事務局長 農業委員会事務局谷口です。令和3年度680人、99.7ヘクということで異常に多くなっているということがございます。これにつきましては、ちょっと制度が令和3年度から変わりました、実はそれまでは農地パトロールで見て、そういった遊休農地、そういったところに対して一度中間管理機構さんのほうに、こういったのが誰かに貸してもらいたいということで通知をするんですけども、機構のほうがそこはなかなかそういった面積も小さいし、使いづらいところであり、機構としても受けることも難しいし、担い手さんに出すところではないというところで、一旦こちらに返ってきたものについては、もうそれ以降は通知をしないというふうに制度がなつたんですけども、令和3年度から制度が変わりまして、一度そういった中間管理機構に出しても駄目であっても再度またそういった状況であれば本人さんの意向を確認して、本人さんがまた中間管理機構で出したいと考えているということであるようですとまた出してくださいというような格好で、結局これまで駄目だったので止めてたやつを、もう一度再度送り直したということになりましたので、令和3年度につきましては大幅に増えたということになっております。ただ、それにつきましても一度もうそういった格好で返ってきたものについては、うちのほうもさすがに毎年毎年同じ状況で送るのもどうなんだということがございますので、新たな変化があったところにつきましてお送りはさせてもらっておりますけども、その辺の見直しをさせてもらいましたので、若干少なくなったというところでございます。以上です。

◆浅野博文分科会長 はい、よろしいですか。はい、そのほかございますか。金田副委員長。

◆金田靖典副分科会長 金田です。お世話になります。171ページ、大規模飼料作経営基盤強化対策事業費ですけども、1つ教えていただきたいのと、どういう関係があるのかということで、この瀬というのはね、場所がこれどこかよく分からない、この瀬という場所を教えてほしいなと、もう1つは西桂見、三津、福井というの、これ湖山池の南岸沿いをずっと今、改修工事みたいなことをされていますよね。あそこ今、拡張工事を、県道になるのかな、南岸沿いをやっとならされますけども、そこの関連性ではどうなのかということをお教えください。

◆浅野博文分科会長 はい、山川課長。

○山川泰成農政企画課長 農政企画課山川です。瀬地区は湖山池の東側といいますかね、附属のちょっと南側の辺りになります。（「養鶏場の辺」と呼ぶ者あり）そうです、そうです。そのちょっと上のほうですかね。北のほうですね、あの辺になります。それで、議員さんおっしゃられるように県の工事をやってまして、それで、福井なんかもまだ工事が、今年度いっぱい終わるんですけども、ようやく工事が終わるのでまた来年度、新年度から牧草組合立ち上げて牧草の営農に入るといような段取りになっておりまして、要するに県の工事の進捗を待つて

から営農のほうに入っているというような、今、流れになっています。以上です。

◆浅野博文分科会長 はい、金田副委員長。

◆金田靖典副分科会長 ありがとうございます。要するに、今、あそこを拡張、護岸をもう一遍立ち上げて、削れたところをね、一遍立ち上げて、それで、見たら畑作復旧何たらかんたらと書いてあるもんだから、こんなところに何の畑作するんだろかなと思って、工事のあんちゃんに聞いても、いや、畑作するんですわとか言うから、そういうことなんかなと思ったけど、これがだからずっとつながっていくということだね、分かりました。ありがとうございます。

それからいいですか、続けて。事業別概要 180 ページの下段、水産資源維持増殖事業費というのがあるんですけども、これね、去年まではここにね、アユが書いてあったんですよ。それで、アユの放流が主体でなっていたんですけども、今回はね、今年度見るとシジミになっているんですよ。それで、4.11 トンのアユにしてもシジミというのは一体どれぐらいの量なのか、令和3年度は3.73 のシジミなのかアユなのかよく分かりませんが、その量というのがぴんときませんでね。そもそもこのシジミの産卵場整備なのか、アユの放流事業なのか、ちょっとどちらなのかいうのを教えてください。

◆浅野博文分科会長 はい、山口課長。

○山口真二林務水産課長 林務水産課山口でございます。水産資源維持増殖事業でございますけれども、千代川におきましてはアユとヤマメ等の放流を行っております。また、ふれあい放流ということで、子供たちによります魚の放流事業というのも行っとる事業でございます。併せまして湖山池周辺では、こちらのほうでも以前はシジミの稚貝をほかのところに放すといった事業もやりましたけれども、最近湖の中にあります支障物等を撤去したりということで、いわゆる漁がしやすいような環境をつくるというような事業を行っとるところでございます。事業の実績等の書き方がちょっと分かりにくくて申し訳ございません。千代川流域と書いてあります4.11 トン、3.73 トン、3.73 トンというの、これがアユの放流のボリュームでございます。それで、その横の湖山池流域というところでやっとる事業内容につきましてシジミの産卵場整備一式、一式、一式という形で年度によりましてこのところがシジミの産卵場であったりとか、シジミの放流であったり、場合によってはウナギの放流であったりといったこともございましたので、ちょっとこういった書き方をさせていただくととところでございます。以上でございます。

◆浅野博文分科会長 はい、金田副委員長。

◆金田靖典副分科会長 分かりました。要するに事業が混在しているということですね。それでこういう形になってね、分かりました、分かりました。アユが4.11 トンというのが何なのかよく分かりませんが、ということだということが分かりました。ありがとうございます。

シジミがとっても三津の辺りで上がるとのを見させてもらおうと、東郷池のような玉のようなまさにね、とっても厚いシジミで宍道湖のシジミと全然違うんですね。東郷湖のシジミって御存じのように黒いダイヤと言われて大阪のほうではすごい高値で売れるというので一時東郷湖が船で埋まったというほど乱獲されたんですけども、これも10年後、33年ぐらいにはかなりのトン数上げるんだちゅうことでね、大分前からシジミをやっとられて、その成果が少し出

てるのかなと思って見させてもらったんですけど、引き続きおいしいシジミを期待しておりますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。

すみません、戻ります。177ページの豊かな森づくり推進事業費というのがありますけど、これ多分以前、竹林整備事業費という名前でやられていた分のかなと思うんですけども、このちょっと以前までの竹林整備事業費とそれから豊かな森づくり推進事業の関連と、その変わった理由というの、多分どっかで説明いただいたかと思ひます。改めて確認させてやってください。

◆浅野博文分科会長 はい、山口課長。

○山口真二林務水産課長 林務水産課山口でございます。前回の委員会のときに少し説明させていただきました。以前から竹林整備事業ということで行っとたんですけども、その財源が鳥取県の森林環境保全税という税金を使っておりました。これのほう側が令和4年度にその在り方検討ということでどういったふうな形にしたらいいかということのをいろいろと県の中で検討されまして、今度は豊かな森づくり協働税という新しい税金に変わりました。内容につきましても一部ずつ変更が行われておりました。それで、一番最初に、我々に公表されてるのは、この竹林整備ですけれども、これ以外にも里山保全事業でありますとか、幾つも新しい事業を立ち上げたいということでお話を聞いとるところでございます。それで、内容につきまして鳥取市のほう側で応援するものがあれば、この後また補正予算なり、来年度以降の当初予算なりでまたお願ひすることになるのかなと思っております。まだ、今現在分かっとります竹林整備事業だけを今回はさせていただきましたが、税の内容の変更に伴いましてまた事業も大分変わってくるんじゃないかなと思つたところでございます。以上でございます。

◆浅野博文分科会長 はい、金田副委員長。

◆金田靖典副分科会長 ありがとうございます。多分僕のほう聞きもらしたんだろうと思つてんですけどもね。

最後もう1点だけ。185ページの上段、水道事業会計の繰出しということで11億1,400万が計上されています。これもうずっと9億3,000万、9億4,000万、11億2,000万、そして来年度も11億1,000万ということなるんですけども、水道事業の説明のところで農業集落排水が、これが対象になってるんだろうと思つてんですけども、今、農業集落排水が、これは下水道の関係で聞けばいいでしょうけども、農業に聞くのはどうなのかと思つただけでも、もともと先ほども出たウルグアイ・ラウンドの関係で圃場整備を始めて、それとセットでたしか農業集落排水というのは同時進行というか、後追いみたいな形でね、事業として動いとつたように僕覚えてるんですけども、ところが片っぽでは農業集落排水が次第にかつてのところを合併して一本化していこうという動きがあるんですけども、これはどの時点まで、その一般会計から水道事業のほうにその農業集落排水に関しては経費は面倒見るようなことになるわけですかね。

◆浅野博文分科会長 はい、坂本次長。

○坂本武夫次長兼農村整備課長 農村整備課坂本です。こちらの水道事業会計繰出しのほうには集落排水事業に関連するものは含まれておりません。集落排水事業だと下水道部のほうの事業で今やっておりますので、よろしいでしょうか。（「簡水」と呼ぶ者あり）簡水のことですね。

◆浅野博文分科会長 発言は手を挙げてから。はい、金田委員。

◆**金田靖典副分科会長** 金田です。大変失礼いたしました。勉強不足で、しっかり勉強してからまたよろしく願います。ありがとうございました。

◆**浅野博文分科会長** はい、よろしいですか。そのほか。はい、石田委員。

◆**石田健太郎委員** ちょっと最後1点だけ。金田副委員長の話の中で一緒に関連で聞けばよかったんですけども、180ページの下段の水産資源維持増殖事業費のところのその千代川流域のアユの放流でありますけども、これも市のほうに聞くことがいいのかどうか分かりませんが、結局、これアユは放流するんですけども、結局毎回毎回そのカワウの対策といいますかね、結局何かカワウの餌のために放流してるような何かそんなことにもなりかねんようなそういうちょっと危惧をしております、このカワウの対策のほうについては県なり何なりの動きがあるかとは思いますが、この辺りについては放流はしっかりと成長して戻ってきて河原辺りにしっかりと資源として回収するのが一番ベストですけども、回収するまでにカワウがみんな食べてしまうということにならんように本来していただくために、このカワウの対策のことについては何か動きといいますか、対策が練られてるのかどうかちょっと聞かせていただきたいと思うんです。

◆**浅野博文分科会長** はい、山口課長。

○**山口真二林務水産課長** 林務水産課山口でございます。カワウの対策につきましては、鳥取市役所の林務水産課のほうで実は行っておりません、ただそうはいっても稚アユ等の保護というような重要案件でございまして、それで、漁協自らがテグス等を張ってアユを守るという、特に産卵時のアユというのを守らなきゃいけないということでテグス等を張ったりしております。こういったのは漁協自らがやっているんですけども、鳥取市等もその場所に応援に行きまして、私のほうもくいを打ったりとか、そういった応援のほうは実はさせていただいてるところでございます。

◆**浅野博文分科会長** はい、石田委員。

◆**石田健太郎委員** 分かりました。何か対策がそういう対策というのも実際の効果的にはどこまでなのかなという気はしないでもないわけでありまして。でも、放流事業そのものはこちらのほうやっとなるところの中で、やっぱり成果として出さないけんと思うわけでありまして、よく以前はそれこそ湖山池のほうといいますか、向こうのほうねぐらにして、それで日中にこっちに河原まで来てさんざん食べてまた帰っていくんだみたいなことがありましたけども、やはりそこも並行しての対策を練らないとせっかく放流をしても、それが形として帰ってこないことにはいかなもんなかと思っておりますので、その辺りやっぱり関係機関といいますか、多分県のほうとかになるろうかと思っておりますけども、その辺りの対策もしっかりしていただくようにまた申し上げていただけたらなというふうに思います。これ意見です。

◆**浅野博文分科会長** はい、そのほかございますか。はい、米村委員。

◆**米村京子分科員** 大したことなく、もうこれ議事録に載せなくていいような話なんですけど、シジミ、何とか皆様、これからもよろしく願います。もう毎回宍道湖と湖山池、湖山池勝ってますので何とかこれをブランドにしてもらえたらいいなと思っております。よろしく願います。

◆浅野博文分科会長 御意見でよろしいですか。はい、そのほかございますでしょうか。はい、山川課長。

○山川泰成農政企画課長 農政企画課山川です。加嶋議員のほうから過疎債の300万の充当先についてお尋ねがございました。すみません。事業別概要の163ページの農産物加工センターの管理運営費というのがございます。その中で、佐治の農産物加工センターのボイラーの修繕に307万ほどかかっておりまして、300万全てそちらのほうに充当しているということでございます。以上です。

◆浅野博文分科会長 はい、加嶋委員。

◆加嶋辰史分科員 加嶋です。関連の質疑を続けます。有効な農地利用というものを農林水産部では考えられてると思うんですけど、その農業公社や3セク団体に農地保全をお願いして、その対象地域が過疎地域である場合に、この対策債が設備投資等が今後発生するときとかに財源にできるのではないのか、その対象にはなっていないのかってところを分かりませんか。

◆浅野博文分科会長 はい、山川課長。

○山川泰成農政企画課長 農政企画課山川です。市が出資する団体等の事業について過疎債が充てられるかというお話ですよね。全く駄目というわけではないと思いますが、しっかりとした過疎計画を立てつつ、財政計画上の話で順位づけ等もあると思いますので、もしそういった財源が使えるようだったら当然そっちのほうの財源を優先的に使っていくということになると思いますが、全てそれに充てられるかどうかというのはちょっと分からないというところですね。以上です。

◆浅野博文分科会長 はい、加嶋委員。

◆加嶋辰史分科員 加嶋です。今回、観光のほうでいえば、砂の美術館や道の駅かわはらには過疎債が充てられていて、それで有利な財源がこれから過疎対象地域は増えていく方向ではあるとは思うので、そのときにすぐ手が挙げるようにというか、そのときにどういった状況でということとはほんと地の利については農村整備課でしょうし、方策手段については林務水産でしょうし、国県の動向であれば政策企画課さんが担当されるのかなと思います。そのときに、本当に一般財源ばかりで予算がこの減額、要求額から減額されるということは散見されるので、きちんと取れるところは国から引っ張ってきて予算の圧縮のほうに貢献していただけたらなというふうな思いであります。以上、意見です。

◆浅野博文分科会長 はい、そのほかございますか。よろしいですかね。

（「なし」と呼ぶ者あり）

◆浅野博文分科会長 以上で質疑を終結します。執行部の皆様は御退出ください。はい、その前に、はい、山川課長。

○山川泰成農政企画課長 すみません。農政企画課山川です。既に採決をさせていただいておりましたが、石田議員のほうから建物の耐用年数の話をいただきました。ちょっと補足ですけども、新耐震基準ですと木造40年、非木造50年なんですが、昭和56年までの旧耐震基準ですと、木造が24年で、非木造が38年ということで。以上でございます。失礼しました。

◆浅野博文分科会長 はい、ありがとうございました。

分科会長報告のとりまとめ

◆浅野博文分科会長 それでは引き続き分科会長報告の取りまとめを行いたいと思います。

まず、農林水産部・農業委員会所管の部分で皆様から出された質疑、意見について事務局より報告してください。橋本さん。

○橋本圭司議事係主任 それでは質疑の項目について御報告します。

まず、農産物販路拡大支援事業費について加嶋委員より質疑がありまして、コロナ交付金があたっていることについて、財源についてというようなことで山川課長から言っておられまして、また、吉野委員からも実績額についての質疑がありました。また、同じく首都圏への販路拡大についての質疑もございました。

次に米村委員より、みんなでやらいや農業支援事業費とスマート農業実装加速化促進事業費についての仕分けの仕方について、また、申請窓口について、実績額についての質疑がございました。

また、加嶋委員より過疎対策債の財源についての質疑がございました。

また、吉野委員より鳥取地どりブランド生産拡大支援事業費補助金についての、この事業継続についての考え方の質疑、また、県としての役割分担に関する部分の質疑ございまして、また、石田委員よりヒナ鳥の県からの増産についての質疑がございました。

また、続けて石田委員より、ため池ハザードマップ作成事業費についての委託先やため池の数についての質疑がございまして、続けて吉野委員より、ため池監視システム管理費の質疑がございました。また、同じく吉野委員よりため池改修事業費との関連に関する事業の質疑ですとか、監視状況の閲覧状況に関する質疑がございました。

また、米村委員より多面的機能支払交付金に関する多面的機能の部分の質疑、また、石田委員より機構集積支援事業費の実績に関する部分の質疑ございまして、金田副委員長より大規模飼料作経営基盤強化対策事業費に関する質疑、また、水産資源維持増殖事業費に関する事業内容に関する質疑がございました。

続けて豊かな森づくり推進事業費の事業の国からに関する部分の質疑がございまして、また、水道事業会計の部分への繰出しの部分の質疑がございました。

その後、石田委員より水産資源維持増殖事業費で最後の質疑に併せてカワウ対策に関する質疑がございました。

それで、米村委員よりシジミに関する御意見ございまして、あとは、最後は加嶋委員より過疎債の財源充当に関する部分の意見がございました。はい。大体、以上でございます。

◆浅野博文分科会長 はい、橋本さんからまとめていただきましたけども、皆さんのほうで御意見等ありましたら発言のほうよろしくお願ひします。どうですかね、皆さん。ちょっといろいろたくさん出ましたけども、どうですかね。加嶋委員。

◆加嶋辰史分科員 加嶋です。予算審査特別委員会の過去のを見てると、令和4年が減容化施設、令和3年が危険ため池廃止事業、令和2年が新規就農推進事業というような形で、それに別に

重なってもいいのかなとは思いつながら聞いていて、その令和3年の危険ため池廃止事業をやって、そして今回ですね、監視カメラを導入されたりというような形で経緯がそのとき限りでなくて、今回きちんとしてるという意味でもため池事業に関するところ、質問も多かったようですので、そこを採用されてもいいのかなと、あと、事務局に、ごめんなさい。もう一度繰り返して申し訳ないですけど、加嶋以外で意見が述べられたところの部分をちょっと詳細に教えてください。

◆浅野博文分科会長 はい、事務局橋本さん。

○橋本圭司議事係主任 それでは各委員の方々の意見が出た部分について、特にちょっとピックアップして御報告します。

初めの農産物販路拡大支援事業費については、最後吉野委員よりマルシェについていろいろと実績が出てきて、これはどんどん2倍3倍とさらなる飛躍があるように期待するっていうような御発言があったと記録しております。

あとは鳥取地どりブランド生産拡大補助金の部分ですと、県との役割分担、連携をしていく部分と、あと、ヒナ鶏の増産について、やっぱり増えないと事業拡大もなかなか図れないという部分で県に働きかけをしていただきたいというような部分が石田委員よりあったところで増産体制を確立していただきたいというような御意見がありました。

先ほどのため池の部分では特に御意見の部分はちょっとなかったかなとは思いますが。

あと、水産資源維持増殖のほうではやはりシジミのブランド化のようなどころの部分の御発言がありましたのとやっぱりカワウ対策を十分に行ってほしいというような御意見があったと思っております。

あとは、過疎債の部分でしっかり使える事業かどうか見極めて事業費圧縮を図っていただきたいというような御意見もあったということで記載をしております。ちょっとざつとです。以上です。

◆浅野博文分科会長 今、橋本さんより発言ありましたけども、どうですかね、この辺も参考にしてもらってちょっとどれかに絞ってもらえたらと思っておりますけども。

もう一度確認ですけども、この農産物販路拡大支援事業の中で、東京のほうっていうか、関東のほうにも積極的にということで話がありましたよね。あれは委員意見じゃなかったですかね、吉野委員さんのほうから。はい、橋本さん。

○橋本圭司議事係主任 その点ではそういった御発言で、広げていただきたいというふうにとちょっとメモを私もしてなくて、関西での反省を踏まえて首都圏にも行くのかとか、全体的にさらなる飛躍に期待したいというような御発言があったというメモは取っております。

◆浅野博文分科会長 そういう販路拡大していきたいという、そういう意見も出ていると思うんです。はい、岡田委員。

◆岡田信俊分科員 今の案に賛成です。

◆浅野博文分科会長 じゃあ、今、岡田委員のほうからもありました、この農産物販路拡大支援事業の辺でまとめたらどうでしょうか。はい、大丈夫でしょうか。はい、橋本さん。

○橋本圭司議事係主任 確認です。農産物販路拡大支援事業費という候補が、今、言っていた

いておりました、質疑としましては、初めに加嶋委員からの発言がありまして、その後に吉野委員からの発言が3回ほどあったというところで、その事業についてはこれで質疑は終わっておりますけれども、ここら辺の、ちょっと書けるだけ内容があるかどうか確認が必要かと思えますけれども、そんなに質疑があったわけでもないの、ちょっと内容をしっかり見させていただきたいなど。もう1つぐらい出していただけるとありがたいです。

◆浅野博文分科会長 はい、加嶋委員。

◆加嶋辰史分科員 加嶋です。もう1つ、地どりのほうも明確に増産体制の不足に対する意見が出たので、それも候補に残して、その両方をちょっと検討していただけたらなと思います。以上です。

◆浅野博文分科会長 はい、そのほかございますか。今、加嶋委員のほうからありましたけれども、農産物販路拡大支援事業のほうをちょっともう一度見直ししながら、もしちょっと難しければ鳥取地どりブランドのほうの事業でということ考えさせてもらってもよろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◆浅野博文分科会長 そうしましたら、また委員長、副委員長のほうに一任いただいて、また案のほう出させていただきますのでよろしく願いいたします。

以上で予算審査特別委員会文教経済分科会を閉会し切り替えます。

文教経済委員会に切換え 午後2時34分 閉会

文教経済委員会・ 予算審査特別委員会 文教経済分科会 日程

日時：令和5年3月15日（水）10：00～

場所：7階 第2委員会室

経済観光部 (10：00～)

----- <予算審査特別委員会 文教経済分科会> -----

◎議案【質疑】

議案第 1号 令和5年度鳥取市一般会計予算【所管に属する部分】

議案第 3号 令和5年度鳥取市公設地方卸売市場事業費特別会計予算

議案第10号 令和5年度鳥取市温泉事業費特別会計予算

議案第11号 令和5年度鳥取市観光施設運営事業費特別会計予算

◎分科会長報告の取りまとめ

農林水産部・農業委員会 (経済観光部終了後)

----- <文教経済委員会> -----

◎議案【質疑・討論・採決】

議案第 44号 鳥取市地域活性化施設の設置及び管理に関する条例の一部改正について

議案第 52号 財産の無償譲渡について

◎議案（追加提案分）【説明・質疑・討論・採決】

議案第 58号 令和4年度鳥取市一般会計補正予算（第11号）【所管に属する部分】

◎陳情【質疑・討論・採決】

<新規>

令和5年陳情第5号

政府に食料自給率の向上、持続可能な農業経営と農村を守ることを求める意見書の提出を求める陳情

◎報告

農業委員及び農地利用最適化推進委員の募集状況について

----- <予算審査特別委員会 文教経済分科会> -----

◎議案【質疑】

議案第 1 号 令和 5 年度鳥取市一般会計予算【所管に属する部分】

◎分科会長報告の取りまとめ

----- <文教経済委員会> -----

その他

令和 5 年度文教経済委員会視察について